

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題） 第2次移送(5)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43787

沖繩(準備委)

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

89

大政事外外儀官

務務典房
次次
臣官官審審長長
備総人電厚計

電信写

総番号(TA) 38320
 71年 8月 2日 12時 50分 沖縄 発 米北
 71年 8月 2日 12時 54分 本省 着
 外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

調査長
参企折調
領移長
参領旅査

どくガス撤去(マ号の台ふう避難)

第829号 平

往電第828号に関し

1. マックグロー号は台ふう避難のため/日午後4時ころてんがんさんばしを出港した。
2. 民政府キャンベル渉外官によれば移送再開はてんこう次第であり、再開決定後はあらためて48時間前の通報を行なつた上で移送を再開する。

(了)

参地中東
北東
長米北
参北北保
中南審
参一
参西東洋
西東

了長経
参書近ア
次総経国
長経協
参賀統
参政技二
国一理
参協
参政経科
軍社専
参道内外
長情長文長
一二

毒ガス撤去(の)

沖縄来往信

電報

長島

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

125

大政事外外儀官

務務典房
次次
臣官官審審長長
備総人電厚計

電信写

総番号(TA) 38343
 71年 8月 2日 17時 03分 沖縄 発 米北
 71年 8月 2日 17時 07分 本省 着
 外務大臣殿 有津 大使 臨時代理大使 総領事 代理

調査長
参企折調
領移長
参領旅査

米軍爆弾の発見

第830号 平

7月29日付おきなわタイムス(朝刊)は、同28日ウラソエ市内のごうの中から高性能爆弾7発が発見され、りゆう警の要請で米軍の弾やく処理班が回収したが、爆弾がマスタード・ガス弾ににているところから、大さわぎになつたと報道しているところ、2日民政府渉外局サトウ少さは当方の照会に対し要旨次のとおり答えた。

- (1) 発見された爆弾はガス兵器ではない。
- (2) 7発のうち5発は第2次大戦中のもので155ミリ照明弾で残り2発は155ミリほう弾で1966年のマークが入っている。
- (3) これら爆弾の出所は不明で、現在そうさ中である。

(了)

了長経
参書近ア
次総経国
長経協
参賀統
参政技二
国一理
参協
参政経科
軍社専
参道内外
長情長文長
一二

(部の内 号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官

電信写

100

務務典房
次次
臣官官審審長長
儀給人電厚計
書文会営給

調査長
領移長
参企析調
参領旅査移

ア 参地中東
長 北東西
米長 参北北保
中南審
歐 参西東洋
長 西東

近ア長経
参書近ア
次総経国資
長 参賀統
経協長 参政技二
参 国一理
長 参
国 参政経科
長 軍社專
参道内外
文長 一二

総番号(TA) 39055
71年 8月 5日 17時 30分 沖 總 発 米
71年 8月 5日 17時 31分 本 省 着 粗

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(7日)

第842号 平

往電第814号に関し、

5日午前米軍よりりゆう政対策本部に対し、マックグロー
号が6日テンガンさんぼしに入港し、7日から移送を再開
する旨ならびに7日のGB424トン移送計画は次のとお
りなる旨を通報越した由。(冒頭往電順)

17	10	107・2	0830
18	10	89・6	1045
19	10	118・4	1300
20	10	108・8	1530

(了)

毒ガス撤去(17) 沖總米往信電桶

(部の内 号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官

電信写

73

務務典房
次次
臣官官審審長長
儀給人電厚計
書文会営給

調査長
領移長
参企析調
参領旅査移

ア 参地中東
長 北東西
米長 参北北保
中南審
歐 参西東洋
長 西東

近ア長経
参書近ア
次総経国資
長 参賀統
経協長 参政技二
参 国一理
長 参
国 参政経科
長 軍社專
参道内外
文長 一二

総番号(TA) 39065
71年 8月 6日 11時 20分 沖 總 発 米
71年 8月 6日 11時 40分 本 省 着 粗

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(8日)

第844号 平

往電第842号に関し、

8日のGB509・5トンの移送画次のとおり。(冒頭往
電順)

21	10	108・8	0700
22	10	108・8	0915
23	10	118・4	1130
24	10	93・5	1345
25	10	80・0	1600

(了)

高瀬

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

146

大政事外外儀官

務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

電信写

調査長 参企析調
領移長 参領旅査移

総番号(TA) 39675 主管
71年8月9日18時0分 沖縄 発 米比1
71年8月9日18時29分 本省 着
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(第2回総括)

第859号 平

往電第799号に関し、

1. 台ふう20号の接近で、マックグロー号は//日の予定を変更し、8日の第2回陸上移送終了後同日午後6時30分GB計1,855.3トンを積載してジョンストン島へ向け出港した。(これで移送開始以来8日までの移送量はHD2,723トン、GB4,438.3トン、計7,161.3トンとなる。)

2. 上記GB計1,855.3トンの7月28日より8月8日までの移送内訳次のとおり。

(移送日)	(移送量)
28	263.1
29	280.8
30	305.4
31	372.4
7	424.0
8	209.6 (丁)

毒ガス撤去(四) 沖縄米往信密査班

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
経 次総経国資源
長 参貿統三万
経協長 参政技二
参 国一理
参参協規
長 参政経科
国 軍社專
長 参道内外
文 一二

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

103

大政事外外儀官

務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

電信写

調査長 参企析調
領移長 参領旅査移

総番号(TA) 39676 主管
71年8月9日18時0分 沖縄 発 米比1
71年8月9日18時30分 本省 着
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(//日)

第860号 平

往電第844号に関し

9日米軍は、//日より第3船ミラー号(SGT. ANDREW MILLER: 12,400総トン数)による移送作業を開始する旨及び//日のV区229.9トンの移送計画は次の通りなる旨を発表した。(冒頭往電順)なお、民政府によれば「ミ」号は明//日てんがんさんばしに入港の予定なる由。

1	10	810	0830
2	10	679	1200
3	10	810	1530

(丁)

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
経 次総経国資源
長 参貿統三万
経協長 参政技二
参 国一理
参参協規
長 参政経科
国 軍社專
長 参道内外
文 一二

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

電信写

総番号(TA) 39805 主管
71年8月10日 11時25分 沖 純 発 米地
71年8月10日 12時34分 本 省 着 米地

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(12日)

7863号 平
往電7860号に同じ
12日のVX 234トンの移送計画次の通り
(冒頭往電順)

4	10	81,0	0830
5	10	83,8	1200
6	10	69,2	1520

調査長
領移長
参企折調
参領旅査移

参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参一
参西東洋
長 西東

参書近ア
長 次総経国資
源
長 参貿統国万
長 参政技二
長 参政経科
長 参道内外
長 参条協規
長 参政経科
長 参道内外
長 参情長文長

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

電信写

総番号(TA) 40049 主管
71年8月11日 16時13分 沖 健 発 米地
71年8月11日 16時14分 本 省 着 米地

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(13日)

第865号 平

往電第863号に同じ

13日のVX 256, 5トンの移送計画次の通り。(冒頭
往電順)

7	10	65,6	0830
8	10	58,4	1045
9	10	65,6	1300
10	10	66,9	1530

(丁)

調査長
領移長
参企折調
参領旅査移

参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参一
参西東洋
長 西東

参書近ア
長 次総経国資
源
長 参貿統国万
長 参政技二
長 参政経科
長 参道内外
長 参条協規
長 参政経科
長 参道内外
長 参情長文長

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

145

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚計
 書文会営給

電信写

総番号(TA) 40066 主管
 71年 8月 11日 18時 45分 沖繩 発
 71年 8月 11日 18時 54分 本省 着 米北1

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(11日)

第868号 平

往電第860号に関し

1. 11日のどくガス移送は船積み作業が予想よりも順調に行なわれたので移送回数も1回増やし、都合4回にわたって合計438.7トンのVXガスの移送を行なった。終了時刻午後4時15分。なお、本使第1回の移送を視察せるところ、ランパート高等弁務官ならびに上原衆議院議員もこれに立会っていた。

2. 最終移送に立会ったムラズミが目撃したところでは、移送の直前にジェット機が数回にわたり上空を通過したが、その度に米側はカテナ基地と連絡をとり、また、コンボイの時間を遅らせる等して、移送中のコンボイの上空をジェット機が通過することがないように措置していた由。

(了)

調査長
 参企析調
 領移長
 参領旅査移

参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中南審
 参一二
 参西東洋
 長 西東

近ア長経
 参書近ア
 次総経国資源
 参貿統三万
 参政技二
 参国一理
 参条協規
 参政経科
 参社專
 参道内外
 一二

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

110

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚計
 書文会営給

電信写

総番号(TA) 40059 主管
 71年 8月 12日 10時 50分 沖繩 発
 71年 8月 12日 10時 54分 本省 着 米北1

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(12、13日)

第870号 平

往電第863号及び第865号に関し

12日及び13日のVX移送計画は次の通り変更された。

(冒頭往電順)

12日(計325.6トン)

5	10	109.5	0830
6	10	95.6	1100
7	10	42.2	1315
8	10	78.3	1530

13日(計308.9トン)

9	10	118.0	0830
10	10	58.4	1045
11	10	65.6	1300
12	9	66.9	1530

(了)

調査長
 参企析調
 領移長
 参領旅査移

参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中南審
 参一二
 参西東洋
 長 西東

近ア長経
 参書近ア
 次総経国資源
 参貿統三万
 参政技二
 参国一理
 参条協規
 参政経科
 参社專
 参道内外
 一二

(部の内 号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

609

大政事外外儀官
務務典房
次次典房
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

電信写
71年 8月 12日 11時 5分 非 絶 発
71年 8月 12日 12時 1分 本 省 着 米北

調査長
領移長

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(14日)

第871号 平

往電第863号に関し

14日のVX388トンの移送計画次の通り。(冒頭往電順)

13	10	108.8	0830
14	10	140.2	1045
15	8	77.8	1300
16	7	61.2	1530

(了)

中東
北東西
長
参北北
中
南
参一二
参西東洋
西東
長

近
参書近ア
次総経国資
源
長
参貿統国万
参政技二
国一理
参条協規
参政経科
長
参道内外
長
文長

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

秘密標記 (赤色)

7122

() 第 486 号
昭和 46 年 8 月 12 日

外務大臣 殿

準備委代表事務所
高瀬代



(件名)
毒ガス撤去 (ハズ"少将記者会見)

引用公・電信
日付・番号

去る7月16日行なわれ七ハズ"少将記者会見
見録了却別添送付す。

付属添付 付属空便 (行) 付属空便 (DP) 付属船便 (貨) 付属船便 (郵)

本信送付先：
本信写送付先：
配付先：

GA-3-1

在外公館

要
首席事務官
総務課
渉外課
調査課
力加
局庶務



17
JDA、ONTA、
5
7
2

沖中
送付
27

UNITED STATES CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS

Urasoe, Okinawa

July 16, 1971

MEMORANDUM TO NEWS MEDIA: 71-13

Public Affairs Department

Tel: 72153, 79156

TRANSCRIPT OF NEWS CONFERENCE BY MAJOR GENERAL JOHN J. HAYES, COMMANDING GENERAL, 2ND LOGISTICAL COMMAND, COMMANDER 'OPERATION RED HAT', AND MR. OSAMU OSHIMA, CHIEF, LIAISON AND PUBLIC AFFAIRS DIVISION, GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS, CO-CHAIRMEN OF THE JOINT U.S.-GRI TOXIC CHEMICAL MUNITIONS REMOVAL SAFETY MEASURES COMMITTEE, AT THE RYUKYU TOKYU HOTEL, NAHA, JULY 14, 1971

MAJOR HORVATH, CHIEF OF INFORMATION, HQ. USARYIS: Before we get started -- Mr. Oshima sends his regrets, he's going to be late; however, he has asked us because of General Hayes' schedule to start and he will join us as soon as he can get here. Therefore, I'd appreciate the timing of your questions accordingly -- so we can terminate this meeting in order for Gen. Hayes to leave here at 4 p.m. In connection with that, if you would keep your questions as short as possible and only ask one question at a time, it will enable us to get more questions to the General and have him answer. I will turn the floor over to Gen. Hayes.

Mina: san, konnichi wa. In response to several requests for interviews from members of the press and due to the fact that we are now less than 24 hours away from the beginning of the Red Hat final phase of the operation, Mr. Oshima and I who have been working so closely together for these past number of weeks felt it would be appropriate to hold this open press conference similar to the one which I held in this very hotel last January.

I'm really glad to have this opportunity to meet with members of the press again. I understand that you received the Red Hat press briefing from Maj. Horvath and the other members of his briefing team this morning. However, I recognize there may still be some areas which require or for which you would like further clarification and I will attempt, along with Mr. Oshima if he gets here, to clarify these points.

I think that for my own point I would like to stress one major point that we are prepared to carry out the operation in accordance with the directions of the United States Secretary of Defense that it shall be carried out with maximum safety. And I'm now ready for your questions.

REPORTER (interpreted): I understand. My name is Mekar. I'm from RBC. I understand the remaining portion of the chemical stock will consist of approximately 1,285 tons of HD, VX and G.B. Could you give us a breakdown in the composition of the chemical munitions by the type of the chemical agents?

GENERAL HAYES: The figure is off by a factor of ten. There's approximately 13,000 tons of munitions remaining to be removed from Okinawa. And I am not at liberty to give a breakdown of the types and quantities of the munitions that are involved in the stockpile.

REPORTER (interpreted): I'm from Nishi Nihon Shimbun. I would like to ask you if the convoy movement to load the first ship will continue right through up until 24 July including the weekends? And the second part of my question is, can you give us a breakdown of the chemical agent that will be involved in the first shipment starting tomorrow?

GENERAL HAYES: The answer to the first part of the question is, yes. It will continue uninterrupted; once we start loading, the convoys will run every day including Saturdays and Sundays. The answer to the question about tomorrow's shipments, they will entirely be consisting of the munitions filled with the agent HD.

(Over)

REPORTER (interpreted): Can you give us total tonnage of the mustard-filled munitions that's going out tomorrow? According to information received from GRI sources, it is reported to be a total of 637 tons. Can you confirm this?

GENERAL HAYES: I can confirm it. That's correct.

REPORTER (interpreted): My name is Hirota. I'm from Nihon Keizai Shimbun. According to previous information that we received we were supposed to get information at the end of the day for the operation as a summary of what took place for the day, information pertaining to types and quantity by tonnage of chemical munitions that were shipped and were transported that day. According to a statement made in the question and answer period following the briefing this morning, the quantity cannot be given. Can you tell us whether you will be giving us the types and quantity of munitions transported for the day, as you have stated before, on the daily basis as a summary?

GENERAL HAYES: The answer, if you mean -- exact numbers -- that is, numbers of rounds and types of munitions -- the answer is, no. The summary of what has been moved at the end of the day as a total tonnage by convoy which would also indicate the types of munitions that were in that convoy will be summarized, just in the eventuality that there is a difference between the amount for some reason during the day and obviously we would have an explanation for why the difference.

REPORTER: Wales, CBS, RBC. The military is taking elaborate safety precautions to see that nothing untoward happens and yet it was a leak, I believe, which first brought the presence of these weapons on Okinawa to light. And I don't believe yet there has ever been an official answer exactly what happened. Can you tell me the circumstances involved?

GENERAL HAYES: Yes, briefly the leak was involved in a maintenance operation on one of the Navy munitions, back in 1969 -- I think you're referring to -- a different type of an operation we are now doing. We are here involved in moving items, all of which have been inspected. We are sure they are completely safe, that is, no leakers, and are removing them under transport to the pier and load on ship -- so there's really not a comparison with the operation.

GENERAL HAYES: I think we should recognize Mr. Oshima, who has been working so closely with me in the preparations in assurance of safety measures as the head of the GRI committee for safety. If any of you want to address your questions to Mr. Oshima for the GRI side of it, feel perfectly free to do so.

REPORTER: Lou Cioffi of ABC News. Is Mr. Oshima satisfied with the way this operation is being carried out or is there something that he would like to see done that is not being done?

MR. OSHIMA (interpreted): As far as the safety plan developed by the Government of the Ryukyu Islands is concerned we feel that we have done everything possible and that we find our safety plan to be satisfactory. Therefore, we feel that if the U.S. Forces will comply with a number of requests and conditions that we have attached, that we have included in the safety plan to carry out the operations, we feel that as long as the safety measures and safety matters are concerned, with respect to the people along the route, as far as the safety aspect of the operation is concerned, that this operation can be carried out with complete safety.

REPORTER (interpreted): My name is Kita. I'm from NET. We were briefed on the traffic restrictions that will be enforced near Tengan Pier during the time the operation is underway. During the briefing this morning, we were told that Highway 24 would be restricted from any traffic entering that area between Higashionna and Konbu but I think perhaps that what you meant was to have traffic restrictions placed at that portion of Highway 24 between Higashionna and Tengan Pier, but not including Konbu, thus allowing any interested press representatives to drive up to Tengan Pier area from the direction of Konbu. Is this correct?

(More)

GENERAL HAYES: If the police barrier on the road is north of Konbu on Route 24, so that we -- if there were personnel coming to the press center -- they would probably use that route.

MAJOR HORWATH: To add to that fact, we are operating a shuttle bus from Higashionna to Highways 13 and 24.

REPORTER (interpreted): You will have the bus going back and forth between Tengan Pier and Higashionna quite frequently?

MAJOR HORWATH: Yes.

REPORTER (interpreted): It appears that approximately 600 tons of chemical munitions will be moved each day on 15 and 16 July. At that weight wouldn't it be possible, weather permitting, for you to completely transport all remaining, approximately 13,000 tons of munitions in a faster period than 50 days? Do you foresee such a possibility?

GENERAL HAYES: Negative. The question is based on simple arithmetic but loading the ships is not simple arithmetic. Some of the days we will not have convoys that have 10 trailers in them. Some of the days we will not move 500 tons and the main reason is it's the care for the loading and storage and the time it takes to load the munitions aboard the ship.

We cannot call a succeeding convoy forward until we have unloaded and stowed the munitions of the preceding convoy. So it's the time it takes to load the ship safely that is the determining factor and not the number of trailers in the convoy or the number of convoys we could run in a day just counting convoys.

REPORTER: Jones, CBS News. I'm sure you're well aware of many in the United States, including some of the Congressmen, who have suggested all along that these gases, wherever they are, should be destroyed or detoxified. We'd like to have your feeling, your attitude, that is, a military man in this nuclear age, how important are these gases to be retained in Hawaii?

GENERAL HAYES: Well, you're asking me a question which is sort of near and dear to my heart, since I have been a chemical officer for 37 years of my military service and, personally, I have a belief that this type of weapon is not as inhumane as it has been made out to be as a result of propaganda. It provides an option in the military arsenal which is short of nuclear devastation.

I believe also that -- for enemies whom we are convinced are not only aware of but have stockpiles of such munitions -- to have the ability to retaliate in kind rather than escalating a conflict is extremely important as an option to hold, whether you intend to use it or not.

The President of the United States has stated and it is our national policy that we would never launch toxic warfare. That if used against us we would have the option of retaliation. Those members of Congress who would have us destroy them would have us destroy one of the options open to the military and to the country. I think it ties the President's hands more than they are tied today. It is our national policy that we will retain our stockpile and that's the reason we are moving these to Johnston Island.

GENERAL HAYES: Have we run the press out of questions?

REPORTER (interpreted): I'm from the Ryukyu Shimpo. This morning during the briefing we were told that out of \$200,000 cost that was expended for the construction of the new route, some of it was spent for improving that portion of the route within the Marine ammo storage area to increase the shoulder of the road, improving the route in that area. Is that right? Can you confirm this? The next part of my question is, will you be submitting the cost breakdown of the construction that took place to the Japanese Government?

(More)

GENERAL HAYES: The answer to the first is, yes. There was one bad curve in the Marine ASP that, in accordance with the requests from the GRI Safety Committee to assure that there were no curves tighter than a certain amount, we had the engineers clear that and they did some construction on the side of the road in the Marine depot and some paving of some rough spots. So the answer essentially is, yes.

I can confirm that there was work done in the Marine ASP as well as in the Chibana depot proper. The answer to the second is, I believe, that Col. Tarbell, the Facilities Engineer of USARYIS, is making a full accounting of these funds to the Japanese Government. That's a little bit outside my sphere in 2d Log Command and it's one of the details that I haven't personally been bothered with because the Facilities Engineer has been handling it while I've been working on the technical aspects and the safety aspects with Mr. Oshima.

REPORTER (interpreted): Kita, from NET. I understand during the first phase shipment that was conducted January 13 of this year there were some experts checking the munitions before the shipment was made to confirm complete safety. This time, of course, you will have much more than the 150 tons inventory that will be taken out of Okinawa for complete removal. Can you tell me if you have safety experts from the United States specifically assigned to do this type of checking for this second phase operations -- team of safety experts doing the checking of the munitions here and whether they were dispatched from the United States?

GENERAL HAYES: The answer to your question is, yes. There is a team of the technical escort detachment from Edgewood Arsenal in Maryland, a special medical team, a Coast Guard ammunition loading expert and a team of personnel from the Naval Ordnance Depot at Concord who are experienced in the handling of munitions aboard ship. They're checking and verifying not only the munitions themselves but the procedures in connection with handling it.

REPORTER (interpreted): Yesterday during the rehearsal there was a 20-minute delay in the convoy moving out of the ammunition storage area. Can you tell us the reason why this delay took place yesterday afternoon? The second part of my question is, would it be possible, would it be that you will have a similar delay tomorrow too when the actual movement starts and, if you do anticipate any delay, can you tell us to what extent you will be able to control any sort of delay?

GENERAL HAYES: Three-part question. The answer to the first is, the delay was not 20 minutes yesterday, but you are correct, that there was a delay. There was an emergency in a KC-135 tanker which was approaching Kadena Air Base. He called in, as an emergency landing, and I held the convoy at the initial point -- where we checked at the first checkpoint -- where we checked the aircraft in accordance with the agreement that we had for absolute safety. When I was advised of the aircraft in an emergency, I directed the convoy commander to hold at the first checkpoint.

The answer to the second one, I do not expect that there will be a similar delay at the first convoy or any succeeding convoys tomorrow. That is the reason that I am flying the helicopter which is the airborne control and I am in constant communication not only with the convoy commander but with Kadena tower so I know everything that is in the air at all times.

The answer to the third part of this question is that a delay for any reason could occur at any time. Our controlling factor is absolute safety and I will always exercise the command prerogative to stop the convoy or delay its operation and not be held to meeting an exact schedule. Safety is always paramount so I will not permit the convoys to proceed unless I am absolutely sure of safety.

REPORTER (interpreted): I cannot remember when it was but going back, there was a B52 crash here on Okinawa and I remember the commander, a military commander, making a statement that the airplane crash was something similar to a traffic accident. In connection with that, I would like to state that

(Over)

during the prolonged operation that will continue for approximately 50 to 55 days, one of your drivers could relax his attitude toward the operation, thus causing a traffic accident. Can you comment on that?

GENERAL HAYES: I would have to admit that such a thing is possible. We are doing everything we can. First, to have selected only the most experienced and careful drivers. Secondly, we are not going to have them behind the wheel any longer than it is necessary and we are going to assure that they are not in a case of exhaustion. Thirdly, every driver is going to be personally inspected by the convoy commander and by my deputy, Col. McCandless, not only every morning but before every convoy. If there's any question about a driver, he will be replaced with one of our replacements. We have sufficient men for a complete duplicate set of drivers for all vehicles.

REPORTER (interpreted): I have a set of two questions that I would like to ask, the first of which is more or less to confirm what we understand the procedure to be in effect at Tengan Pier. Can you tell us what will be the reporting time for newsmen who wish to cover the operations at Tengan Pier from the pump house as they go into the first and second group tomorrow morning? Second part of my question is, after you are through removing the chemical munitions from Okinawa you could possibly get involved in the operations involving the removal of nuclear weapons from Okinawa. I must say that perhaps you are restricted in discussing anything nuclear but let me go on and ask you anyway if the nuclear weapons are to be removed from Okinawa -- perhaps the Army -- rather than the other services, will be the service responsible for control of such weapons and, if so, I believe 2d Log Command will be the unit responsible for the control and possibly the operations involving removal of nuclear weapons from Okinawa. Can we have comments on those two points?

GENERAL HAYES: Let me say that the first question -- on that we have to ask Major Horvath, because it's specifically about the press operation.

MAJ HORVATH: The bus leaves Higashionna, Highways 13 and 24 at 0800. The first group, providing you cooperate, will be on the pier when the first convoy arrives. The second group will be on 30 minutes after the first group is finished. And they've already given me their breakdown on the first two groups. I asked the American newsmen who were present then, to -- tomorrow morning -- when they arrive at the press center -- they will quickly break themselves into two groups of six and we will have you all prepared and ready to go with the first group and the second group.

GENERAL HAYES: With respect to your second question you're right. I cannot discuss anything about nuclear weapons but I can honestly tell you I have nothing that has been occupying my time in connection with nuclear weapons. I am fully occupied with Red Hat. And I would just comment that I hope the world -- when I finish this operation -- somebody doesn't say well you're pretty experienced in this now -- take over something else -- so I really am answering outside my field. I don't have anything to do with it, so I have no comment to make.

REPORTER (interpreted): I would like to ask you how much of chemical munitions and what type of chemical munitions will be taken out of Okinawa on the Sea Lift, the first ship to be used for the shipment?

GENERAL HAYES: The quantity of munitions on the Sea Lift?

MR. NAKAYOSHI, interpreter: Total tonnage and the type of munitions.

GENERAL HAYES: Well I won't tell him the type of munitions. That's it. It's a forbidden answer. I will give you the tonnage on that when the PIO people are ready to release it for the ship. You will get it, but I'm not going to give it to you today -- the reason being, I want to explain -- because if I give you a figure today and it appears in the press and we don't do exactly that, then we'll have a big press conference and a flap about it.

Since we agreed to postpone the beginning of the convoys until not before 8:30 in the morning, it is causing us to change out plans for the loading of the Sea Lift so that we can sail her by the 24th. For this reason until I have

(More)

the experience of running the convoys this way I don't know exactly how much we're going to get on her, button her up and send her.

I have to go now, but one of the things that I have been impressed at -- assure that if there are any new people who were not here before, that I rapidly go over for the newsmen what the effects of these three different agents are so that there won't be any misconstrued news stories.

The first HD which is moving the first and second day is a persistent blister agent. It is the mustard gas of World War I. The second is GB, which is a non-persistent nerve gas. It is the gas developed by the Germans during World War II. And the third is VX. It is a persistent nerve agent similar to mustard in its consistency and vapor pressure. Gentlemen, thank you very much.

(END)

UNITED STATES CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS
Urasoe, Okinawa
July 16, 1971

MEMORANDUM TO NEWS MEDIA: 71-13

Public Affairs Department
Tel: 72153, 79156

TRANSCRIPT OF NEWS CONFERENCE BY MAJOR GENERAL JOHN J. HAYES, COMMANDING GENERAL, 2ND LOGISTICAL COMMAND, COMMANDER 'OPERATION RED HAT', AND MR. OSAMU OSHIMA, CHIEF, LIAISON AND PUBLIC AFFAIRS DIVISION, GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS, CO-CHAIRMAN OF THE JOINT U.S.-GRI TOXIC CHEMICAL MUNITIONS REMOVAL SAFETY MEASURES COMMITTEE, AT THE RYUKYU TOKYU HOTEL, NAHA, JULY 14, 1971

MAJOR HORVATH, CHIEF OF INFORMATION, HQ USARIIS: Before we get started -- Mr. Oshima sends his regrets, he's going to be late; however, he has asked us because of General Hayes' schedule to start and he will join us as soon as he can get here. Therefore, I'd appreciate the timing of your questions accordingly -- so we can terminate this meeting in order for Gen. Hayes to leave here at 4 p.m. In connection with that, if you would keep your questions as short as possible and only ask one question at a time, it will enable us to get more questions to the General and have him answer. I will turn the floor over to Gen. Hayes.

Mina: san, konnichi wa. In response to several requests for interviews from members of the press and due to the fact that we are now less than 24 hours away from the beginning of the Red Hat final phase of the operation, Mr. Oshima and I who have been working so closely together for these past number of weeks felt it would be appropriate to hold this open press conference similar to the one which I held in this very hotel last January.

I'm really glad to have this opportunity to meet with members of the press again. I understand that you received the Red Hat press briefing from Maj. Horvath and the other members of his briefing team this morning. However, I recognize there may still be some areas which require or for which you would like further clarification and I will attempt, along with Mr. Oshima if he gets here, to clarify these points.

I think that for my own point I would like to stress one major point that we are prepared to carry out the operation in accordance with the directions of the United States Secretary of Defense that it shall be carried out with maximum safety. And I'm now ready for your questions.

REPORTER (interpreted): I understand. My name is Mekar. I'm from RBC. I understand the remaining portion of the chemical stock will consist of approximately 1,285 tons of HD, VX and G B. Could you give us a breakdown in the composition of the chemical munitions by the type of the chemical agents?

GENERAL HAYES: The figure is off by a factor of ten. There's approximately 13,000 tons of munitions remaining to be removed from Okinawa. And I am not at liberty to give a breakdown of the types and quantities of the munitions that are involved in the stockpile.

REPORTER (interpreted): I'm from Nishi Nihon Shimbun. I would like to ask you if the convoy movement to load the first ship will continue right through up until 24 July including the weekends? And the second part of my question is, can you give us a breakdown of the chemical agent that will be involved in the first shipment starting tomorrow?

GENERAL HAYES: The answer to the first part of the question is, yes. It will continue uninterrupted; once we start loading, the convoys will run every day including Saturdays and Sundays. The answer to the question about tomorrow's shipments, they will entirely be consisting of the munitions filled with the agent HD.

(Over)

REPORTER (interpreted): Can you give us total tonnage of the mustard-filled munitions that's going out tomorrow? According to information received from GRI sources, it is reported to be a total of 637 tons. Can you confirm this?

GENERAL HAYES: I can confirm it. That's correct.

REPORTER (interpreted): My name is Hirota. I'm from Nihon Keizai Shimbun. According to previous information that we received we were supposed to get information at the end of the day for the operation as a summary of what took place for the day, information pertaining to types and quantity by tonnage of chemical munitions that were shipped and were transported that day. According to a statement made in the question and answer period following the briefing this morning, the quantity cannot be given. Can you tell us whether you will be giving us the types and quantity of munitions transported for the day, as you have stated before, on the daily basis as a summary?

GENERAL HAYES: The answer, if you mean -- exact numbers -- that is, numbers of rounds and types of munitions -- the answer is, no. The summary of what has been moved at the end of the day as a total tonnage by convoy which would also indicate the types of munitions that were in that convoy will be summarized, just in the eventuality that there is a difference between the amount for some reason during the day and obviously we would have an explanation for why the difference.

REPORTER: Wales, CBS, RBC. The military is taking elaborate safety precautions to see that nothing untoward happens and yet it was a leak, I believe, which first brought the presence of these weapons on Okinawa to light. And I don't believe yet there has ever been an official answer exactly what happened. Can you tell me the circumstances involved?

GENERAL HAYES: Yes, briefly the leak was involved in a maintenance operation on one of the Navy munitions, back in 1969 -- I think you're referring to -- a different type of an operation we are now doing. We are here involved in moving items, all of which have been inspected. We are sure they are completely safe, that is, no leakers, and are removing them under transport to the pier and load on ship -- so there's really not a comparison with the operation.

GENERAL HAYES: I think we should recognize Mr. Oshima, who has been working so closely with me in the preparations in assurance of safety measures as the head of the GRI committee for safety. If any of you want to address your questions to Mr. Oshima for the GRI side of it, feel perfectly free to do so.

REPORTER: Lou Cioffi of ABC News. Is Mr. Oshima satisfied with the way this operation is being carried out or is there something that he would like to see done that is not being done?

MR. OSHIMA (interpreted): As far as the safety plan developed by the Government of the Ryukyu Islands is concerned we feel that we have done everything possible and that we find our safety plan to be satisfactory. Therefore, we feel that if the U.S. Forces will comply with a number of requests and conditions that we have attached, that we have included in the safety plan to carry out the operations, we feel that as long as the safety measures and safety matters are concerned, with respect to the people along the route, as far as the safety aspect of the operation is concerned, that this operation can be carried out with complete safety.

REPORTER (interpreted): My name is Kita. I'm from NET. We were briefed on the traffic restrictions that will be enforced near Tengan Pier during the time the operation is underway. During the briefing this morning, we were told that Highway 24 would be restricted from any traffic entering that area between Higashionna and Konbu but I think perhaps that what you meant was to have traffic restrictions placed at that portion of Highway 24 between Higashionna and Tengan Pier, but not including Konbu, thus allowing any interested press representatives to drive up to Tengan Pier area from the direction of Konbu. Is this correct?

(More)

GENERAL HAYES: If the police barrier on the road is north of Konbu on Route 24, so that we -- if there were personnel coming to the press center -- they would probably use that route.

MAJOR HORVATH: To add to that fact, we are operating a shuttle bus from Higashionna to Highways 13 and 24.

REPORTER (interpreted): You will have the bus going back and forth between Tengan Pier and Higashionna quite frequently?

MAJOR HORVATH: Yes.

REPORTER (interpreted): It appears that approximately 600 tons of chemical munitions will be moved each day on 15 and 16 July. At that weight wouldn't it be possible, weather permitting, for you to completely transport all remaining, approximately 13,000 tons of munitions in a faster period than 50 days? Do you foresee such a possibility?

GENERAL HAYES: Negative. The question is based on simple arithmetic but loading the ships is not simple arithmetic. Some of the days we will not have convoys that have 10 trailers in them. Some of the days we will not move 500 tons and the main reason is it's the care for the loading and storage and the time it takes to load the munitions aboard the ship.

We cannot call a succeeding convoy forward until we have unloaded and stowed the munitions of the preceding convoy. So it's the time it takes to load the ship safely that is the determining factor and not the number of trailers in the convoy or the number of convoys we could run in a day just counting convoys.

REPORTER: Jones, CBS News. I'm sure you're well aware of many in the United States, including some of the Congressmen, who have suggested all along that these gases, wherever they are, should be destroyed or detoxified. We'd like to have your feeling, your attitude, that is, a military man in this nuclear age, how important are these gases to be retained in Hawaii?

GENERAL HAYES: Well, you're asking me a question which is sort of near and dear to my heart, since I have been a chemical officer for 37 years of my military service and, personally, I have a belief that this type of weapon is not as inhumane as it has been made out to be as a result of propaganda. It provides an option in the military arsenal which is short of nuclear devastation.

I believe also that -- for enemies whom we are convinced are not only aware of but have stockpiles of such munitions -- to have the ability to retaliate in kind rather than escalating a conflict is extremely important as an option to hold, whether you intend to use it or not.

The President of the United States has stated and it is our national policy that we would never launch toxic warfare. That if used against us we would have the option of retaliation. Those members of Congress who would have us destroy them would have us destroy one of the options open to the military and to the country. I think it ties the President's hands more than they are tied today. It is our national policy that we will retain our stockpile and that's the reason we are moving these to Johnston Island.

GENERAL HAYES: Have we run the press out of questions?

REPORTER (interpreted): I'm from the Ryukyu Shimpō. This morning during the briefing we were told that out of \$200,000 cost that was expended for the construction of the new route, some of it was spent for improving that portion of the route within the Marine ammo storage area to increase the shoulder of the road, improving the route in that area. Is that right? Can you confirm this? The next part of my question is, will you be submitting the cost breakdown of the construction that took place to the Japanese Government?

(More)

GENERAL HAYES: The answer to the first is, yes. There was one bad curve in the Marine ASP that, in accordance with the requests from the GRI Safety Committee, to assure that there were no curves tighter than a certain amount, we had the engineers clear that and they did some construction on the side of the road in the Marine depot and some paving of some rough spots. So the answer essentially is, yes.

I can confirm that there was work done in the Marine ASP as well as in the Chibana depot proper. The answer to the second is, I believe, that Col. Tarbell, the Facilities Engineer of USARYIS, is making a full accounting of these funds to the Japanese Government. That's a little bit outside my sphere in 2d Log Command and it's one of the details that I haven't personally been bothered with because the Facilities Engineer has been handling it while I've been working on the technical aspects and the safety aspects with Mr. Oshima.

REPORTER (interpreted): Kita, from NET. I understand during the first phase shipment that was conducted January 13 of this year there were some experts checking the munitions before the shipment was made to confirm complete safety. This time, of course, you will have much more than the 150 tons inventory that will be taken out of Okinawa for complete removal. Can you tell me if you have safety experts from the United States specifically assigned to do this type of checking for this second phase operations -- team of safety experts doing the checking of the munitions here and whether they were dispatched from the United States?

GENERAL HAYES: The answer to your question is, yes. There is a team of the technical escort detachment from Edgewood Arsenal in Maryland, a special medical team, a Coast Guard ammunition loading expert and a team of personnel from the Naval Ordnance Depot at Concord who are experienced in the handling of munitions aboard ship. They're checking and verifying not only the munitions themselves but the procedures in connection with handling it.

REPORTER (interpreted): Yesterday during the rehearsal there was a 20-minute delay in the convoy moving out of the ammunition storage area. Can you tell us the reason why this delay took place yesterday afternoon? The second part of my question is, would it be possible, would it be that you will have a similar delay tomorrow too when the actual movement starts and, if you do anticipate any delay, can you tell us to what extent you will be able to control any sort of delay?

GENERAL HAYES: Three-part question. The answer to the first is, the delay was not 20 minutes yesterday, but you are correct, that there was a delay. There was an emergency in a KC-135 tanker which was approaching Kadena Air Base. He called in, as an emergency landing, and I held the convoy at the initial point -- where we checked at the first checkpoint -- where we checked the aircraft in accordance with the agreement that we had for absolute safety. When I was advised of the aircraft in an emergency, I directed the convoy commander to hold at the first checkpoint.

The answer to the second one, I do not expect that there will be a similar delay at the first convoy or any succeeding convoys tomorrow. That is the reason that I am flying the helicopter which is the airborne control and I am in constant communication not only with the convoy commander but with Kadena tower so I know everything that is in the air at all times.

The answer to the third part of this question is that a delay for any reason could occur at any time. Our controlling factor is absolute safety and I will always exercise the command prerogative to stop the convoy or delay its operation and not be held to meeting an exact schedule. Safety is always paramount so I will not permit the convoys to proceed unless I am absolutely sure of safety.

REPORTER (interpreted): I cannot remember when it was but going back, there was a B52 crash here on Okinawa and I remember the commander, a military commander, making a statement that the airplane crash was something similar to a traffic accident. In connection with that, I would like to state that

(Over)

during the prolonged operation that will continue for approximately 50 to 55 days, one of your drivers could relax his attitude toward the operation, thus causing a traffic accident. Can you comment on that?

GENERAL HAYES: I would have to admit that such a thing is possible. We are doing everything we can. First, to have selected only the most experienced and careful drivers. Secondly, we are not going to have them behind the wheel any longer than it is necessary and we are going to assure that they are not in a case of exhaustion. Thirdly, every driver is going to be personally inspected by the convoy commander and by my deputy, Col. McCandless, not only every morning but before every convoy. If there's any question about a driver, he will be replaced with one of our replacements. We have sufficient men for a complete duplicate set of drivers for all vehicles.

REPORTER (interpreted): I have a set of two questions that I would like to ask, the first of which is more or less to confirm what we understand the procedure to be in effect at Tengan Pier. Can you tell us what will be the reporting time for newsmen who wish to cover the operations at Tengan Pier from the pump house as they go into the first and second group tomorrow morning? Second part of my question is, after you are through removing the chemical munitions from Okinawa you could possibly get involved in the operations involving the removal of nuclear weapons from Okinawa. I must say that perhaps you are restricted in discussing anything nuclear but let me go on and ask you anyway if the nuclear weapons are to be removed from Okinawa -- perhaps the Army -- rather than the other services, will be the service responsible for control of such weapons and, if so, I believe 2d Log Command will be the unit responsible for the control and possibly the operations involving removal of nuclear weapons from Okinawa. Can we have comments on those two points?

GENERAL HAYES: Let me say that the first question -- on that we have to ask Major Horvath, because it's specifically about the press operation.

MAJ HORVATH: The bus leaves Higashionna, Highways 13 and 24 at 0800. The first group, providing you cooperate, will be on the pier when the first convoy arrives. The second group will be on 30 minutes after the first group is finished. And they've already given me their breakdown on the first two groups. I asked the American newsmen who were present then, to -- tomorrow morning -- when they arrive at the press center -- they will quickly break themselves into two groups of six and we will have you all prepared and ready to go with the first group and the second group.

GENERAL HAYES: With respect to your second question you're right. I cannot discuss anything about nuclear weapons but I can honestly tell you I have nothing that has been occupying my time in connection with nuclear weapons. I am fully occupied with Red Hat. And I would just comment that I hope the world -- when I finish this operation -- somebody doesn't say well you're pretty experienced in this now -- take over something else -- so I really am answering outside my field. I don't have anything to do with it, so I have no comment to make.

REPORTER (interpreted): I would like to ask you how much of chemical munitions and what type of chemical munitions will be taken out of Okinawa on the Sea Lift, the first ship to be used for the shipment?

GENERAL HAYES: The quantity of munitions on the Sea Lift?

MR. NAKAYOSHI, interpreter: Total tonnage and the type of munitions.

GENERAL HAYES: Well I won't tell him the type of munitions. That's it. It's a forbidden answer. I will give you the tonnage on that when the PIO people are ready to release it for the ship. You will get it, but I'm not going to give it to you today -- the reason being, I want to explain -- because if I give you a figure today and it appears in the press and we don't do exactly that, then we'll have a big press conference and a flap about it.

Since we agreed to postpone the beginning of the convoys until not before 8:30 in the morning, it is causing us to change out plans for the loading of the Sea Lift so that we can sail her by the 24th. For this reason until I have

(More)

the experience of running the convoys this way I don't know exactly how much we're going to get on her, button her up and send her.

I have to go now, but one of the things that I have been impressed at -- assure that if there are any new people who were not here before, that I rapidly go over for the newsmen what the effects of these three different agents are so that there won't be any misconstrued news stories.

The first HD which is moving the first and second day is a persistent blister agent. It is the mustard gas of World War I. The second is GB, which is a non-persistent nerve gas. It is the gas developed by the Germans during World War II. And the third is VX. It is a persistent nerve agent similar to mustard in its consistency and vapor pressure. Gentlemen, thank you very much.

(END)

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

UNITED STATES CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS
Urasoe, Okinawa
July 16, 1971

MEMORANDUM TO NEWS MEDIA: 71-13

Public Affairs Department
Tel: 72153, 79156

TRANSCRIPT OF NEWS CONFERENCE BY MAJOR GENERAL JOHN J. HAYES, COMMANDING GENERAL, 2ND LOGISTICAL COMMAND, COMMANDER, 'OPERATION RED HAT', AND MR. OSAMU OSHIMA, CHIEF, LIAISON AND PUBLIC AFFAIRS DIVISION, GOVERNMENT OF THE RYUKYU ISLANDS, CO-CHAIRMEN OF THE JOINT U.S.-GRI TOXIC CHEMICAL MUNITIONS REMOVAL SAFETY MEASURES COMMITTEE, AT THE RYUKYU TOKYU HOTEL, NAHA, JULY 14, 1971

MAJOR HORVATH, CHIEF OF INFORMATION, HQ USARYIS: Before we get started -- Mr. Oshima sends his regrets, he's going to be late; however, he has asked us because of General Hayes' schedule to start and he will join us as soon as he can get here. Therefore, I'd appreciate the timing of your questions accordingly -- so we can terminate this meeting in order for Gen. Hayes to leave here at 4 p.m. In connection with that, if you would keep your questions as short as possible and only ask one question at a time, it will enable us to get more questions to the General and have him answer. I will turn the floor over to Gen. Hayes.

Mina'san, konnichi wa. In response to several requests for interviews from members of the press and due to the fact that we are now less than 24 hours away from the beginning of the Red Hat final phase of the operation, Mr. Oshima and I who have been working so closely together for these past number of weeks felt it would be appropriate to hold this open press conference similar to the one which I held in this very hotel last January.

I'm really glad to have this opportunity to meet with members of the press again. I understand that you received the Red Hat press briefing from Maj. Horvath and the other members of his briefing team this morning. However, I recognize there may still be some areas which require or for which you would like further clarification and I will attempt, along with Mr. Oshima if he gets here, to clarify these points.

I think that for my own point I would like to stress one major point that we are prepared to carry out the operation in accordance with the directions of the United States Secretary of Defense that it shall be carried out with maximum safety. And I'm now ready for your questions.

REPORTER (interpreted): I understand. My name is Mekar. I'm from RBC. I understand the remaining portion of the chemical stock will consist of approximately 1,285 tons of HD, VX and GB. Could you give us a breakdown in the composition of the chemical munitions by the type of the chemical agents?

GENERAL HAYES: The figure is off by a factor of ten. There's approximately 13,000 tons of munitions remaining to be removed from Okinawa. And I am not at liberty to give a breakdown of the types and quantities of the munitions that are involved in the stockpile.

REPORTER (interpreted): I'm from Nishi Nihon Shimbun. I would like to ask you if the convoy movement to load the first ship will continue right through up until 24 July including the weekends? And the second part of my question is, can you give us a breakdown of the chemical agent that will be involved in the first shipment starting tomorrow?

GENERAL HAYES: The answer to the first part of the question is, yes. It will continue uninterrupted; once we start loading, the convoys will run every day including Saturdays and Sundays. The answer to the question about tomorrow's shipments, they will entirely be consisting of the munitions filled with the agent HD.

(Over)

REPORTER (interpreted): Can you give us total tonnage of the mustard-filled munitions that's going out tomorrow? According to information received from GRI sources, it is reported to be a total of 637 tons. Can you confirm this?

GENERAL HAYES: I can confirm it. That's correct.

REPORTER (interpreted): My name is Hirota. I'm from Nihon Keizai Shimbun. According to previous information that we received we were supposed to get information at the end of the day for the operation as a summary of what took place for the day, information pertaining to types and quantity by tonnage of chemical munitions that were shipped and were transported that day. According to a statement made in the question and answer period following the briefing this morning, the quantity cannot be given. Can you tell us whether you will be giving us the types and quantity of munitions transported for the day, as you have stated before, on the daily basis as a summary?

GENERAL HAYES: The answer, if you mean -- exact numbers -- that is, numbers of rounds and types of munitions -- the answer is, no. The summary of what has been moved at the end of the day as a total tonnage by convoy which would also indicate the types of munitions that were in that convoy will be summarized, just in the eventuality that there is a difference between the amount for some reason during the day and obviously we would have an explanation for why the difference.

REPORTER: Wales, CBS, RBC. The military is taking elaborate safety precautions to see that nothing untoward happens and yet it was a leak, I believe, which first brought the presence of these weapons on Okinawa to light. And I don't believe yet there has ever been an official answer exactly what happened. Can you tell me the circumstances involved?

GENERAL HAYES: Yes, briefly the leak was involved in a maintenance operation on one of the Navy munitions, back in 1969 -- I think you're referring to -- a different type of an operation we are now doing. We are here involved in moving items, all of which have been inspected. We are sure they are completely safe, that is, no leakers, and are removing them under transport to the pier and load on ship -- so there's really not a comparison with the operation.

GENERAL HAYES: I think we should recognize Mr. Oshima, who has been working so closely with me in the preparations in assurance of safety measures as the head of the GRI committee for safety. If any of you want to address your questions to Mr. Oshima for the GRI side of it, feel perfectly free to do so.

REPORTER: Lou Cioffi of ABC News. Is Mr. Oshima satisfied with the way this operation is being carried out or is there something that he would like to see done that is not being done?

MR. OSHIMA (interpreted): As far as the safety plan developed by the Government of the Ryukyu Islands is concerned we feel that we have done everything possible and that we find our safety plan to be satisfactory. Therefore, we feel that if the U.S. Forces will comply with a number of requests and conditions that we have attached, that we have included in the safety plan to carry out the operations, we feel that as long as the safety measures and safety matters are concerned, with respect to the people along the route, as far as the safety aspect of the operation is concerned, that this operation can be carried out with complete safety.

REPORTER (interpreted): My name is Kita. I'm from NET. We were briefed on the traffic restrictions that will be enforced near Tengan Pier during the time the operation is underway. During the briefing this morning, we were told that Highway 24 would be restricted from any traffic entering that area between Higashionna and Konbu but I think perhaps that what you meant was to have traffic restrictions placed at that portion of Highway 24 between Higashionna and Tengan Pier, but not including Konbu, thus allowing any interested press representatives to drive up to Tengan Pier area from the direction of Konbu. Is this correct?

(More)

GENERAL HAYES: If the police barrier on the road is north of Konbu on Route 24, so that we -- if there were personnel coming to the press center -- they would probably use that route.

MAJOR HORVATH: To add to that fact, we are operating a shuttle bus from Higashionna to Highways 13 and 24.

REPORTER (interpreted): You will have the bus going back and forth between Tengan Pier and Higashionna quite frequently?

MAJOR HORVATH: Yes.

REPORTER (interpreted): It appears that approximately 600 tons of chemical munitions will be moved each day on 15 and 16 July. At that weight wouldn't it be possible, weather permitting, for you to completely transport all remaining, approximately 13,000 tons of munitions in a faster period than 50 days? Do you foresee such a possibility?

GENERAL HAYES: Negative. The question is based on simple arithmetic but loading the ships is not simple arithmetic. Some of the days we will not have convoys that have 10 trailers in them. Some of the days we will not move 500 tons and the main reason is it's the care for the loading and storage, and the time it takes to load the munitions aboard the ship.

We cannot call a succeeding convoy forward until we have unloaded and stowed the munitions of the preceding convoy. So it's the time it takes to load the ship safely that is the determining factor and not the number of trailers in the convoy or the number of convoys we could run in a day just counting convoys.

REPORTER: Jones, CBS News. I'm sure you're well aware of many in the United States, including some of the Congressmen, who have suggested all along that these gases, wherever they are, should be destroyed or detoxified. We'd like to have your feeling, your attitude, that is, a military man in this nuclear age, how important are these gases to be retained in Hawaii?

GENERAL HAYES: Well, you're asking me a question which is sort of near and dear to my heart, since I have been a chemical officer for 37 years of my military service and, personally, I have a belief that this type of weapon is not as inhumane as it has been made out to be as a result of propaganda. It provides an option in the military arsenal which is short of nuclear devastation.

I believe also that -- for enemies whom we are convinced are not only aware of but have stockpiles of such munitions -- to have the ability to retaliate in kind rather than escalating a conflict is extremely important as an option to hold, whether you intend to use it or not.

The President of the United States has stated and it is our national policy that we would never launch toxic warfare. That if used against us we would have the option of retaliation. Those members of Congress who would have us destroy them would have us destroy one of the options open to the military and to the country. I think it ties the President's hands more than they are tied today. It is our national policy that we will retain our stockpile and that's the reason we are moving these to Johnston Island.

GENERAL HAYES: Have we run the press out of questions?

REPORTER (interpreted): I'm from the Ryukyu Shimpo. This morning during the briefing we were told that out of \$200,000 cost that was expended for the construction of the new route, some of it was spent for improving that portion of the route within the Marine ammo storage area to increase the shoulder of the road, improving the route in that area. Is that right? Can you confirm this? The next part of my question is, will you be submitting the cost breakdown of the construction that took place to the Japanese Government?

(More)

GENERAL HAYES: The answer to the first is, yes. There was one bad curve in the Marine ASP that, in accordance with the requests from the GRI Safety Committee to assure that there were no curves tighter than a certain amount, we had the engineers clear that and they did some construction on the side of the road in the Marine depot and some paving of some rough spots. So the answer essentially is, yes.

I can confirm that there was work done in the Marine ASP as well as in the Chibana depot proper. The answer to the second is, I believe, that Col. Tarbell, the Facilities Engineer of USARYIS, is making a full accounting of these funds to the Japanese Government. That's a little bit outside my sphere in 2d Log Command and it's one of the details that I haven't personally been bothered with because the Facilities Engineer has been handling it while I've been working on the technical aspects and the safety aspects with Mr. Oshima.

REPORTER (interpreted): Kita, from NET. I understand during the first phase shipment that was conducted January 13 of this year there were some experts checking the munitions before the shipment was made to confirm complete safety. This time, of course, you will have much more than the 150 tons inventory that will be taken out of Okinawa for complete removal. Can you tell me if you have safety experts from the United States specifically assigned to do this type of checking for this second phase operations -- team of safety experts doing the checking of the munitions here and whether they were dispatched from the United States?

GENERAL HAYES: The answer to your question is, yes. There is a team of the technical escort detachment from Edgewood Arsenal in Maryland, a special medical team, a Coast Guard ammunition loading expert and a team of personnel from the Naval Ordnance Depot at Concord who are experienced in the handling of munitions aboard ship. They're checking and verifying not only the munitions themselves but the procedures in connection with handling it.

REPORTER (interpreted): Yesterday during the rehearsal there was a 20-minute delay in the convoy moving out of the ammunition storage area. Can you tell us the reason why this delay took place yesterday afternoon? The second part of my question is, would it be possible, would it be that you will have a similar delay tomorrow too when the actual movement starts and, if you do anticipate any delay, can you tell us to what extent you will be able to control any sort of delay?

GENERAL HAYES: Three-part question. The answer to the first is, the delay was not 20 minutes yesterday, but you are correct, that there was a delay. There was an emergency in a KC-135 tanker which was approaching Kadena Air Base. He called in, as an emergency landing, and I held the convoy at the initial point -- where we checked at the first checkpoint -- where we checked the aircraft in accordance with the agreement that we had for absolute safety. When I was advised of the aircraft in an emergency, I directed the convoy commander to hold at the first checkpoint.

The answer to the second one, I do not expect that there will be a similar delay at the first convoy or any succeeding convoys tomorrow. That is the reason that I am flying the helicopter which is the airborne control and I am in constant communication not only with the convoy commander but with Kadena tower so I know everything that is in the air at all times.

The answer to the third part of this question is that a delay for any reason could occur at any time. Our controlling factor is absolute safety and I will always exercise the command prerogative to stop the convoy or delay its operation and not be held to meeting an exact schedule. Safety is always paramount so I will not permit the convoys to proceed unless I am absolutely sure of safety.

REPORTER (interpreted): I cannot remember when it was but going back, there was a B52 crash here on Okinawa and I remember the commander, a military commander, making a statement that the airplane crash was something similar to a traffic accident. In connection with that, I would like to state that

(Over)

during the prolonged operation that will continue for approximately 50 to 55 days, one of your drivers could relax his attitude toward the operation, thus causing a traffic accident. Can you comment on that?

GENERAL HAYES: I would have to admit that such a thing is possible. We are doing everything we can. First, to have selected only the most experienced and careful drivers. Secondly, we are not going to have them behind the wheel any longer than it is necessary and we are going to assure that they are not in a case of exhaustion. Thirdly, every driver is going to be personally inspected by the convoy commander and by my deputy, Col. McCandless, not only every morning but before every convoy. If there's any question about a driver, he will be replaced with one of our replacements. We have sufficient men for a complete duplicate set of drivers for all vehicles.

REPORTER (interpreted): I have a set of two questions that I would like to ask, the first of which is more or less to confirm what we understand the procedure to be in effect at Tengan Pier. Can you tell us what will be the reporting time for newsmen who wish to cover the operations at Tengan Pier from the pump house as they go into the first and second group tomorrow morning? Second part of my question is, after you are through removing the chemical munitions from Okinawa you could possibly get involved in the operations involving the removal of nuclear weapons from Okinawa. I must say that perhaps you are restricted in discussing anything nuclear but let me go on and ask you anyway if the nuclear weapons are to be removed from Okinawa -- perhaps the Army -- rather than the other services, will be the service responsible for control of such weapons and, if so, I believe 2d Log Command will be the unit responsible for the control and possibly the operations involving removal of nuclear weapons from Okinawa. Can we have comments on those two points?

GENERAL HAYES: Let me say that the first question -- on that we have to ask Major Horvath, because it's specifically about the press operation.

MAJ HORVATH: The bus leaves Higashionna, Highways 13 and 24 at 0800. The first group, providing you cooperate, will be on the pier when the first convoy arrives. The second group will be on 30 minutes after the first group is finished. And they've already given me their breakdown on the first two groups. I asked the American newsmen who were present then, to -- tomorrow morning -- when they arrive at the press center -- they will quickly break themselves into two groups of six and we will have you all prepared and ready to go with the first group and the second group.

GENERAL HAYES: With respect to your second question you're right. I cannot discuss anything about nuclear weapons but I can honestly tell you I have nothing that has been occupying my time in connection with nuclear weapons. I am fully occupied with Red Hat. And I would just comment that I hope the world -- when I finish this operation -- somebody doesn't say well you're pretty experienced in this now -- take over something else -- so I really am answering outside my field. I don't have anything to do with it, so I have no comment to make.

REPORTER (interpreted): I would like to ask you how much of chemical munitions and what type of chemical munitions will be taken out of Okinawa on the Sea Lift, the first ship to be used for the shipment?

GENERAL HAYES: The quantity of munitions on the Sea Lift?

MR. NAKAYOSHI, interpreter: Total tonnage and the type of munitions.

GENERAL HAYES: Well I won't tell him the type of munitions. That's it. It's a forbidden answer. I will give you the tonnage on that when the PIO people are ready to release it for the ship. You will get it, but I'm not going to give it to you today -- the reason being, I want to explain -- because if I give you a figure today and it appears in the press and we don't do exactly that, then we'll have a big press conference and a flap about it.

Since we agreed to postpone the beginning of the convoys until not before 8:30 in the morning, it is causing us to change out plans for the loading of the Sea Lift so that we can sail her by the 24th. For this reason until I have

(More)

the experience of running the convoys this way I don't know exactly how much we're going to get on her, button her up and send her.

I have to go now, but one of the things that I have been impressed at -- assure that if there are any new people who were not here before, that I rapidly go over for the newsmen what the effects of these three different agents are so that there won't be any misconstrued news stories.

The first HD which is moving the first and second day is a persistent blister agent. It is the mustard gas of World War I. The second is GB, which is a non-persistent nerve gas. It is the gas developed by the Germans during World War II. And the third is VX. It is a persistent nerve agent similar to mustard in its consistency and vapor pressure. Gentlemen, thank you very much.

(END)

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

72

大政事外外儀官

務務 典房
次次 典房
臣官官審審長長
備総入電厚計
書文会営給

調査長
領移長
参企析調
参領旅査移

参地中東
長北東西
参北北保
中南審
参一
参西東洋
長西東

参書近ア
長次総経国資
源
長参貿統国
参政技二
国一理
参条協規
長国参政経科
長軍社專
参道内外
長文長一

電信写

71年 8月 12日 18時 5分 沖繩 発 北
71年 8月 12日 18時 5分 本省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(12日)

第874号 平

往電第863号に関し

1. 12日の移送はVX347, 2トンをはん送し、午後3時50分終了した。

2. 往電第868号1. の11日の移送量438, 1トンを437, 9トんに訂正願いたい。

3. なお、キャンベル民政府渉外局次長によれば、ミラー号は19日出港の予定なる由。

(了)

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

67

大政事外外儀官

務務 典房
次次 典房
臣官官審審長長
備総入電厚計
書文会営給

調査長
領移長
参企析調
参領旅査移

参地中東
長北東西
参北北保
中南審
参一
参西東洋
長西東

参書近ア
長次総経国資
源
長参貿統国
参政技二
国一理
参条協規
長国参政経科
長軍社專
参道内外
長文長一

電信写

総番号(TA) 40460 主管
71年 8月 13日 11時 5分 沖繩 発 北
71年 8月 13日 12時 5分 本省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(15日)

第876号 平

往電第871号に関し

15日のVX355トンの移送計画次の通り。

17	10	98.6	0700
18	10	80.0	0900
19	7	56.0	1100
20	10	69.2	1300
21	10	51.2	1500

(了)

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官
務務 典房
次次 典房
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会管給

電信写

56

総番号(TA) 40720 主管
71年8月14日 1時30分 沖繩 発着 北
71年8月14日 1時35分 本省 着 北
外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(16日)

第884号 平

往電第876号に関し

16日のVX/76.4トンの移送計画次の通り。(冒頭
往電順)

19	7	56.0	0830
20	10	69.2	1100
21	10	51.2	1445

(了)

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

参地中東
長 北東西
参北北保
中南番
参一
参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
長 次総経国資
長 参貿統三万
長 参政技二
長 参政経科
長 参道内外
長 参道内外
長 参道内外

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

ソカヒ
大政事外外儀官
務務 典房
次次 典房
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会管給

電信写

19

総番号(TA) 40740 主管
71年8月14日 15時37分 沖繩 発着 北
71年8月14日 15時43分 本省 着 北
外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(14日)

第886号 平

往電第883号に関し

14日、VX 318.1トンの輸送作業は午後
3時13分無事終了した。

(了)

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

参地中東
長 北東西
参北北保
中南番
参一
参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
長 次総経国資
長 参貿統三万
長 参政技二
長 参政経科
長 参道内外
長 参道内外
長 参道内外

外務省

早子

(各部の内 号) 注意

大政事外外儀官
務務典房
次次典房
臣官官審審長長
儀給入電厚計
書文会管給

調査企析調
長長
領移参領旅査移
長長

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
長 中
南 参一三
審 参西東洋
欧 西東
長

近ア長 参書近ア
経 次総経国資
長 参質統国
経 参政技二
協 国一理
長 参参協規
国 参政経科
長 軍社專
備 参道内外
長 文長

電信写

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

238

総番号(1A) 48871 主管
71年 8月 13日 13時 05分 沖 優 発 北
71年 8月 16日 13時 07分 本 省 着 北

外務大臣殿 高橋(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

ガス移送(17、18日)

第888号 平

往電第884号に関し

1. 17日のVX246、9トン及び18日のGB242

7トン移送計画次の通り。(冒頭往電順)

17日

21	10	49.0	0830
22	10	103.2	1100
23	7	94.7	1445

18日

24	6	103.1	0830
25	8	139.6	1100

2. 16日午前、行政府対策本部職員は当方に対し要旨次の通り述べた。

(1) ミラー号は18日午後かまたは19日出港の予定。

(2) 今後の配船計画については、(イ) 第3船シーリフト号は20日ナハ港入港、22日てんがんに回航され、同日午後より作業開始をして3日ごろ出港予定。(ロ) 第

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

4船マツクグロー号は9月5日ナハ港入港、7日より作業を開始する予定。

(3) さきに行政府は旧ぼんに伴う3/日より9月5日までの6日間の移送中止を申し入れたが、米軍としてはこれを2、3日としたい意向であり、その上旧ぼん休みを含む全体的な移送の遅れを取りもどすため今後の移送時間を午前7時に早めることを希望越しているが、何れも結論は出ていない。行政府としては以上の点につき直ちに住民の意見をきくことにしている。

(了)

ノカヒ

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

33

- 大政事外外儀官
- 務務典房
- 次次
- 臣官官審審長長
- 儀総人電厚計
- 儀文会營給
- 調査長
- 参企析調
- 参領旅移
- ア 参地中東
- 長北東西
- 参北北保
- 中南
- 参一
- 参西東洋
- 西東
- 近ア
- 参番近ア
- 次総経国万
- 長参貿統
- 参政技二
- 国一理
- 参参協規
- 長参政経科
- 軍社專
- 参道内外
- 文長
- 一二

總番号(TA) 40867 主管
 70年8月16日 15時20分 神 總 務 省 着 北
 70年8月16日 15時25分 本 省 着 北
 外務大臣 閣 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(15,16日)

第892号 平
 往電第883号及び往電第884号に關し、
 15日のVX 251.6トンの及16日のVX
 198.2トンの移送は夫々午後1時29分
 及び2時31分終了した。
 又、15日は同月の移送を取止めた。

外務省

(部の内 号)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

41

- 大政事外外儀官
- 務務典房
- 次次
- 臣官官審審長長
- 儀総人電厚計
- 書文会營給
- 調査長
- 参企析調
- 参領旅查移
- ア 参地中東
- 長北東西
- 参北北保
- 中南
- 参一
- 参西東洋
- 西東
- 近ア
- 参書近ア
- 次総経国資
- 源
- 長参貿統
- 参政技二
- 国一理
- 参参協規
- 長参政経科
- 軍社專
- 参道内外
- 文長
- 一二

總番号(TA) 415 16時15分 沖 務 省 着 北
 71年8月17日 16時17分 本 省 着 北
 外務大臣 閣 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(17日)

第896号 平
 往電第888号に關し、
 17日のどくガス364.7トン(VX 261.6, GB
 103.1)の移送は午後2時44分終了した。
 (了)

外務省

(部の内 号) 注 意

大政事外外儀
務次 典房
臣官官審審長長
備人電厚計
書文会嘗給

調査長
参企析調
参領旅査移

ア 参地中東
長 北西
参北北保
中南審
参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
経 源
長 参貿統国万
経 政技二
協 国一理
長 参参協規
国 政政経科
長 軍社專
情 参道内外
長 文長 一二

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

169

総番号(TA) 41400 主管
71年 2月 18日 15時 45分 沖 編 発 着 北
71年 2月 18日 16時 03分 本 省

外務大臣殿 吉岡 大使 (臨時代理大使) 総領事 代理

どくガス撤去(第3回総括)

第898号 平

往電第859号に関し、

1. 18日の移送は1回のみで午前8時58分GB/39
6トンの移送を了した。

2. ミラー号は総量2,299.3トン(VX2,056
6.6GB242.7)を積載し、19日午前8時
ストーン島へ向け出港する予定。なお、11日より18日
までの移送内訳次のとおり。

(移送日)	(化学ざい)	(移送量)
11	VX	437.9
12	VX	347.2
13	VX	242.0
14	VX	381.1
15	VX	251.6
16	VX	198.2
17	VX, GB	364.7 (VX261.6, GB103.1)

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

18 GB 139.6
3. さらに、第2次移送開始以来18日までの移送総量は
9,460.6トン(HD2,723.0, GB4,68
1.0, VX2,056.6)
(T)

外務省

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

117

大政事外外儀官

事務 典房
次次 電信写
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営総

71年 8月 21日 12時 30分 沖繩 発
71年 8月 21日 13時 32分 本省 着 北

外務大臣殿 吉岡 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(22、23日)

第905号 平

往電第888号に関し

22日のGB432.1トン及び23日のGB232トンの移送計画次の通り。(冒頭往電順)なお、輸送船はシーリフト号である。

(1) 22日

1	10	99.0	0700
2	10	82.7	0915
3	10	80.0	1130
4	10	90.4	1345
5	10	80.0	1600

(2) 23日

6	10	80.0	0830
7	10	80.0	1045
8	9	72.0	1300
9	10	80.0	1530

(了)

調査長 参企析調
領移長 参領旅査程
参地中東
長 北東西
参北北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東
近ア長 参書近ア
経 次総経国
長 参質統
経協 参政技二
長 国一理
参条協規
長 参政経科
情 軍社専
長 参道内外
文 一二

外務省

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

111

大政事外外儀官

事務 典房
次次 電信写
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営総

71年 8月 23日 16時 37分 沖繩 発
71年 8月 23日 16時 48分 本省 着 北

外務大臣殿 吉岡 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(24、25日)

第910号 平

往電第905号に関し

24及び25日のGB移送計画次のとおり。

24日 GB471.6トン

10	10	84.3	0700
11	10	95.2	0915
12	10	99.0	1130
13	10	99.0	1345
14	10	94.1	1600

25日 GB312.8トン

16	10	80.0	0700
17	10	80.0	0915
18	10	80.0	1130
19	9	72.8	1345

(了)

調査長 参企析調
領移長 参領旅査程
参地中東
長 北東西
参北北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東
近ア長 参書近ア
経 次総経国
長 参質統
経協 参政技二
長 国一理
参条協規
長 参政経科
情 軍社専
長 参道内外
文 一二

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

85

- 大政事外外儀官
- 務務 典房
- 次次
- 臣官官審審長長
- 儀総人電厚計
- 書文会營給
- 調査長
- 領移長
- 参企析調
- 参領旅査移
- 参地中東
- 北東西
- 参北北保
- 参一二
- 参西東洋
- 西東
- 参書近ア
- 次総経国
- 参貿統三
- 参政技二
- 国一理
- 参条協規
- 参政経科
- 軍社専
- 参道内外
- 一一

電信写

総番号(TA) 42387 主管
 71年 8月 23日 16時 41分 沖繩 発
 71年 8月 23日 16時 50分 本省 着 北1
 外務大臣殿 吉岡 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(22日)

第9/1号 平

往電第905号に関し

1. 22日午前7時より、第4船シーリフト号に積込みが開始され、当日は6回にわたり合計5/2.1トンのGBガスの移送が行なわれ午後4時44分終了した。
2. シーリフト号への積込みは29日まで行なわれ、9月7日のマツクグロー号への積込み開始まで旧ぼんをはさんで実質8日間の休みとなる予定。

(了)

外務省

ナニノ

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

66

- 大政事外外儀官
- 務務 典房
- 次次
- 臣官官審審長長
- 儀総人電厚計
- 書文会營給
- 調査長
- 領移長
- 参企析調
- 参領旅査移
- 参地中東
- 北東西
- 参北北保
- 参一二
- 参西東洋
- 西東
- 参書近ア
- 次総経国資
- 参貿統三
- 参政技二
- 国一理
- 参条協規
- 参政経科
- 軍社専
- 参道内外
- 一一

電信写

総番号(TA) 42387 主管
 71年 8月 23日 18時 25分 沖繩 発
 71年 8月 23日 18時 38分 本省 着 北1
 外務大臣殿 吉岡 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(23日)

第9/4号 平

往電第905号に関し

1. 23日は5回にわたって移送を行ない、午後4時48分GB計4/1.8トンの移送を了した。
 2. なお、旧ぼん休みまで出来る限り移送を行なうため24日以降は毎朝6時から移送を開始することとなった。
- (了)

外務省

ナニノ

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

33

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 備総人電厚計
 書文会管給

電信写

総番号(TA) 42641 主管
 71年 8月 24日 17時 42分 沖繩 発着 北
 71年 8月 24日 17時 42分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

調査長
 領移長
 参企析調
 参領旅査移

どくガス撤去(24日)

第920号 平

往電第910号に関し。

24日午後4時30分GB452.0/トンの移送を了した。

(了)

参地中東
 北東西
 参北北保
 参一
 参西東洋
 西東

参書近ア
 次総経国資

参貿統国万
 参政技二
 国一理

参条協規
 参政経科

参軍社專
 参道内外

参一

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

156

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 備総人電厚計
 書文会管給

電信写

総番号(TA) 42891 主管
 71年 8月 25日 12時 30分 沖繩 発着 北
 71年 8月 25日 12時 33分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

調査長
 領移長
 参企析調
 参領旅査移

どくガス撤去(事故)

第923号 平 大至急

往電第910号に関し

報道調整官ウツドサイド大さが、//時三木に語ったところ次の通り。

1. 25日午前7時55分、シーリフト号の船内でGBロケットの積込作業中、パレットのスリングのすべりてロケット弾が第4船そう内で40ないし50フィートの高さから落下した。付近の要員は直ちにマスクをし、技術要員は船内に入り綿密な点検を行なつたが、負しよう者もなくガスもれも無いことが確認された。当該ロケットは安全のため特性の2重コンパートメント容器に収納された。

2. 本件に関し米軍は正午までに公式発表を行なう予定。

3. なお本日の輸送作業は、第1回(7時)は実施、第2回目は//時30分実施し、引続き実施する予定。

(了)

参書近ア
 次総経国資

参貿統国万
 参政技二
 国一理

参条協規
 参政経科

参軍社專
 参道内外

参一

外務省

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

116

大政事外外儀官

務務 典房
次次 官官 審審 長長
儀儀 録録 入入 電電 厚厚 計計
書書 文文 会会 営営 給給

電信写

総番号(TA) 42703
71年8月25日14時50分 沖繩 発着 米北
71年8月25日15時58分 本省 着 米北
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

どくガス撤去(26、27日)

第924号 平

往電第910号に関し

26及び27日の移送計画次の通り。

26日GB384.0トン				
22	10	80.0	0700	
23	10	80.0	0915	
24	10	80.0	1130	
25	10	80.0	1345	
26	8	64.0	1600	
27日GB400.0トン				
27	10	80.0	0700	
28	10	80.0	0915	
29	10	80.0	1130	
30	10	80.0	1345	
31	10	80.0	1600	

(丁)

ア 参地中東
長 北東西
米北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
経 次総経国資源
長 参貿統国万
経協長 参政技二
長 国一理
参条協規
長 参政経科
軍社專
長 参道内外
文長 一二

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

280

大政事外外儀官

務務 典房
次次 官官 審審 長長
儀儀 録録 入入 電電 厚厚 計計
書書 文文 会会 営営 給給

電信写

総番号(TA) 43206
71年8月26日20時05分 沖繩 発着 米北
71年8月26日20時24分 本省 着 米北
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

どくガス撤去確認調査

第932号 略 至急

1. 24日リゅう政オオシマ部長は三木に対し次のとおり内話した。

(1) どくガス撤去終了後、日米リゅう合同でチバナ弾やくこの内のどくガスをちよ蔵してあつた地域を調査して撤去が行われたことを確認することを考えている。

(2) このことは3月23日付高等弁務官発行政主席あて書簡(3月25日付往信第174号参照)において既に米側も同意している。

(3) リゅう側としては主席または副主席、オオシマ部長、専門家一名、立法院議員二名(与野党各一)の5名程度を考えており、日本側からも同程度を期待することとなる。(当方注：上記(2)は「日米リゅう共同で合意した専門家チーム」となっている。)

2. 上記に関し、26日ムラズミがクラーク渉外局長に照会したところ次のとおり。

(1) 先般のヘイス少将とオオシマ部長との会談の際に捕

ア 参地中東
長 北東西
米北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東

近ア長 参書近ア
経 次総経国資源
長 参貿統国万
経協長 参政技二
長 国一理
参条協規
長 参政経科
軍社專
長 参道内外
文長 一二

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

去後の確認調査の話が出たが。その際の話合いはハッキリしたものでなく。米側もこれについて明確な同意を与えていない。

(2) 上記高等弁務官の書簡においても如何なる形で VERIFY するか明らかにされていない。(書類による VERIFICATION もあり得る) しかし私見としては何等かの形で確認調査を行うこととなる。

(3) (行われることとなつた際。だれが日本側に参加を招請することとなるかとの質問に対し) 高等弁務官からタカセ大使に対して招請することとなると思う。

(丁)

秘

() 部の内 (号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

198

総番号(TA) 43207 主管
 71年 8月 26日 20時 15分 沖繩 発 米北
 71年 8月 26日 20時 26分 本省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去

第933号 略

25日付りゆうきゆう新報はオキナワにちよ蔵されていたどくガス兵器は米軍が公表していた13,000トンより1,050トン多いという情報を入手した旨を報じているところ。本件について26日ムラズミがクラーク渉外局長に照会したところ次のとおり。

1. 未だ公表していないので、日本政府限りに願いたい。実際の総量は第一次分を含めて13,240トンないし13,250トンである。しかし13,000トンは概数として公表されているのであるからこの程度の差は問題ないと考える。

2. 今回のシーリフト号への積込みが順調に行われれば残量は約700トンとなる見込である。最終船マックグロー号への積込みは5日間にわたつて行われる予定であり。上記残量のほか不要となつた267部隊の器材を積込んで移送する。

3. 上記報道の数字はいかなる根拠に基づくか不明である

秘

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 五官官審審長長
 備総入電厚計
 書友会営給

調査長 参企析調
 領移長 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 米 参北北保
 中南 参一二
 番 参西東洋
 欧 長 西東

近ア 参書近ア
 長 次総経国資
 経 源

長 参質統国万
 経 参政技二
 協 国一理

長 参条協樹
 国 参政経科

長 参社專
 情 参道内外
 文 長 一二

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

あるいは前回のマックロー号の移送量(1,855ト
ン)からざやく算したのかも知れない。
(了)

-2-

(部の内 号)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

3/

大政事外外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
備給人電厚計
書文会営給

総番号(TA) 43208
71年8月26日20時20分 沖繩 主管
71年8月26日20時31分 本省 発着 米01

外務大臣殿 高瀬 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(26日)

才934号 平
往電才924号に關し
26日午後5時GB472.8トソの移送
を了した。
(了)

調査長
領移長
參企析調
參領旅査移

ア 參地中東
長 北東西
參北北保
中南番歐
長 參西東洋
西東

近ア長經
參書近ア
次總經國資
源
長 參賀統三万
經政按二
協長 國一理
參參協規
長國 參政經科
長 軍社專
情長 參道内外
文長 一二

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

125

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚計
 書文会営給

電信写

総番号(TA) 434/6 主管
 71年 8月 7日 11時 50分 沖繩 発着 北1
 71年 8月 27日 11時 51分 本省 着

外務大臣殿 高頼(印) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス事故に対する住民の抗議活動

第936号 平

往電第923号に関し、

りゆう警情報によれば、25日午後10時10分ごろどくガス対策本部へミハラ、コンブ等ふ近の住民約150人が押しかけ、オオシマ副本部長に面会を求めたが本部長不在のため係員に対し、今朝のどくガス積降しの際の事故についてふ近住民に対する通知が約2時間遅れたことを責め、責任ある安全対策の確約を求めてさわいた。直ちに機動隊が出動し26日午前1時30分解散した。なお、26日午前8時対策本部に約40人が昨日と同様の抗議をしに押しかけた由。

(了)

調査長
 参企析調
 領移長
 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中 参一
 南 参西東洋
 参西東
 参西東

近ア 参書近ア
 長 次総経国資
 経 源
 長 参質統国万
 経 参政技二
 協 国一理
 長 参参協規
 国 参政経科
 長 参道内外
 情 長 文長

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

328

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚計
 書文会営給

電信写

総番号(TA) 7344/1 主管
 71年 8月 27日 16時 15分 沖繩 発着 北1
 71年 8月 27日 16時 37分 本省 着

外務大臣殿 高頼(印) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス落下事件に対する抗議

第939号 平

往電第936号に関し、

りゆう警情報によれば

1. どくガス移送沿道のコンブ、エノビ、イケハラ、ウシロバル、ミハラ、ヒガシオンナの5部落代表20人(米軍の要望で制限された人数)は、26日正午から約1時間半にわたりヘイズ少将とチパナ弾やくごにあるレッド・ハット作戦し令部で会い25日朝起つたケンガンさんばしのどくガ스로ケット弾の落下事故に対して

- (1) 今後どのような事故が起きても即ぎに通報すること
- (2) 船積み作業にりゆうきゆう政府の選定した専門家を立ち合わせること
- (3) 緊急避難用のバスを各区に配備すること
- (4) 船積み完了まで現地対策本部と各支部に緊急連絡要員を配置すること
- (5) りゆうきゆう政府は損害賠償を米軍に対しわれわれとともに要求すること

調査長
 参企析調
 領移長
 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中 参一
 南 参西東洋
 参西東
 参西東

近ア 参書近ア
 長 次総経国資
 経 源
 長 参質統国万
 経 参政技二
 協 国一理
 長 参参協規
 国 参政経科
 長 参道内外
 情 長 文長

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

の5項目を要求した。

2. これに対し、ヘイズ少将は(1)については従来から何かあればその都度現地対策本部に連絡しており、今後もそのようにする。(2)については英語の話せる専門家がおり、よりゆう政と話会い実現の方向に持って行きたい。(3)万一の際の避難バス増車は可能(4)についてはよりゆう政の問題であるのでよりゆう政と話会つてもらいたい。(5)補障問題は自分の権限外であると答えた由。

3. さらに5部落代表者は、27日午前ミヤザト副主席に以上の点について要請した由。

4. なお、当地紙は部落代表がヘイズ少将との会談中つぐえをたたいて難きつしたと報じているが、立会つた米軍報道調整部ナカヨシ部員は当方に対しかかる記事は全くおつ造で会談はきわめて平おんであつたとのべていたので参考まで。

(了)

(部の内 号)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 43435
 71年8月27日18時10分 沖縄 発
 71年8月27日18時26分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(27日)

第941号 平

往電第924号に関し。

- 1. 27日午後4時50分、GB560トンの移送を完了した。
- 2. シ=リフト号は、GB2808.5トンの積載を終え、28日午前6時出港する予定。
- 3. 27日までのるい計は、マスタ=ド2,715トン、GB7,497.5トン、VX2,056.6トン、計12,269.1トンである。

(了)

大政事外外儀官

事務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚計
 文会営給

調査長 参企析調
 領移長 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中 参一二
 南 参西東洋
 参西東
 長

近ア 参書近ア
 長 次総経国資
 経 源

長 参貿統三万
 経 参政技二
 協 国一理
 長 参参協規

長 参政経科
 国

長 参軍社專
 参道内外
 文長 一二

- 大政事外外儀官
- 務務 典房
- 次次
- 臣官官 審審長長
- 儀儀 人電厚計
- 書文会營給
- 調査長個移長
- 参企折調
- 参領旅査移
- ア 参地中東
- 長北東西
- 参北北保
- 中南審歐
- 参西東洋
- 西東
- 近ア長経
- 参書近ア
- 次総経国資
- 長経協長参
- 参貿統国万
- 参政技二
- 国一理
- 参参協規
- 参政経科
- 専社専
- 参迎内外
- 一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

33

電信写

総番号(TA) 43743
 71年 8月 28日 12時 49分 沖 縄 発 着
 71年 8月 28日 12時 56分 本 省 着
 主管 北
 外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス除去

ナ944号 平

往電ナ941号に關し

1. シーリフト号は28日午前6時「シ島」に同ケ出港した。
2. マッコクグロー号は9月1日ナハ軍港に入港する予定。

(3)

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

101

電信写

総番号(TA) 43902
 71年 8月 30日 18時 02分 沖 縄 発 着
 71年 8月 30日 18時 13分 本 省 着
 主管 北
 外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガスを除去

第947号 平

往電第799号及び第898号に關し、

1. 8月18日までの移送量につき再慶民政府渉外局と照合した結果、その1部に変更があつたので次のとおり訂正願いたい。

7月15日 589.0、16日 479.0、19日 444.0 (HD296.0、GB148.0)、8月14日 318.1

2. 従つて、第2回移送開始以来8月18日までの移送総量は9,460.6トン (HD2715.0、GB4689.0、VX2,056.6)。

(丁)

毒ガス除去
沖縄米往信電箱
フミシール

- 大政事外外儀官
- 務務 典房
- 次次
- 臣官官 審審長長
- 儀儀 人電厚計
- 書文会營給
- 調査長個移長
- 参企折調
- 参領旅査移
- ア 参地中東
- 長北東西
- 参北北保
- 中南審歐
- 参西東洋
- 西東
- 近ア長経
- 参書近ア
- 次総経国資
- 長経協長参
- 参貿統国万
- 参政技二
- 国一理
- 参参協規
- 参政経科
- 専社専
- 参迎内外
- 一二

外務省

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

いさろ
北北

電信写

大政事外外儀官
務典
次房
臣官官審審長長
係総人電厚計
書文会営給

調査企折調
長領移
長参領旅査移

総番号(TA) 4370
71年8月30日18時06分 沖繩 発
71年8月30日18時17分 本省 着 北北
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(第4回総括)

第948号 平

往電第947号に関し。

1. 28日シニリフト号はGB2, 085, 5トン積載してシ島向け出航したところ、その内訳次のとおり。

(移送日) (移送量)

22	512.1
23	411.5
24	452.1
25	392.8
26	480.0
27	560.0

2. 第2次移送開始以来27日までの総量計12, 269.1トン(HD2, 715.0, GB7, 497.5, V52, 056.6)。

(了)

ア 参地中東
長 北東西
長 参北北保
中南番
隊 参一
長 参西東洋
西東

近ア長
経 参書近ア
次総経国資
源

長 参貿統三万
経 参政技二
協 国一理
長 参条協機

長 参政経科
情 車社専
長 参道内外
文 一

外務省

(部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

北北

電信写

大政事外外儀官
務典
次房
臣官官審審長長
係総人電厚計
書文会営給

調査企折調
長領移
長参領旅査移

総番号(TA) 44898
71年9月3日14時27分 沖繩 発
71年9月3日14時7分 本省 着 北北
外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(確認)

第955号 略 至急

往電第948号に関し

2日大島部長が三木に内話せるところ次の通り。
1. 2日行政府ガス撤去対策本部会議で次の通り決定した。

(1) 確認は移送終了後早急に行なう。時期は9月20日ころに半日程度としたい。

(2) 人選は主席または副主席。大島、イラブ・タグオ(行政府農りん局専門職員、東京教育大学院で農やくを専攻し、毒ガス専門グループの1人)及び立法院の指名する2名、合計5名。

(3) 要領は、レッド・ハット・エリア内のガスを入れていた弾やくこを確認するほか、レッド・ハット・エリア外にもガスが残っていないかを確認する必要があるが、米側と調整する。

(4) その他については、主席と大島に一任する。

2. 8月31日本件に関し大島が、ヘイス少将と次のよう

ア 参地中東
長 北東西
長 参北北保
中南番
隊 参一
長 参西東洋
西東

近ア長
経 参書近ア
次総経国資
源

長 参貿統三万
経 参政技二
協 国一理
長 参条協機

長 参政経科
情 車社専
長 参道内外
文 一

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

に下調整した。

(1) 時期は米側としてはできるだけ早く行ないたい。(2) 人選について米側として異論なし。小山内等のメンバーが入らなければ良いと思う。(3) 要領中、レッド・ハット・エリア内については米側も異論ないが、エリア外については実際に調査するのでなく、その他の方法で証明するようにしたい。(例えば、化学中隊をおきなわから撤去することによる等)。(4) 早急に弁務官に決めてもらい具体的に話し合いたい。

3. 最終積込み作業間に、緊急事態が生起するのではないかと心配している。大島に対し、昨日も「最終日までに必ずガス輸送車を爆破させる。命がおしければ立会いを止めよ。また全住民を避難させよ。」ときよう迫電話があつた。大島が米軍及び警察と相談した結果、今後の輸送予定は詳細な発表をしないようにすることとした。本件マスコミにも了解を得た。ただし、米軍及び警察ともたとえ爆発があつてもガスもれになるような事態にはならないとの判断の様である。

(了)

秘

(部の内号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

内政事務外務
次官典房
官審審長長
人電厚計
書文会當終

調査長
参企折調
領移長
参領旅査程

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中南審
参一
西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国
長 参貿統三
経 参政技二
協 国一理
長 参参協規
国 参政経科
長 軍社專
備 参道内外
長 文
一

総番号(TA) 44917
71年9月3日17時45分 神 緬 主管
71年9月3日17時57分 本 省 発着 米北

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理
ランパート高等弁務官との会談

第957号 極秘 至急

本3日高等弁務官とちゆう食を共にしこん談したる処左記の通り。

1. 本使より、過般上京時貴大臣よりこん談をたまわる候を得たるが、その際弁務官の従来よりの努力を多とすること及び、今後共協力を深むる為一層の努力を要請する旨を声方ひ命ありたる旨を伝えたる処、同官は右を謝し今後共努力すべき旨を述べたり。

2. RED HAT OPERATIONにつきて弁務官より言及ありたるを以つて、往電第955号のGRIの情報に基づき本使より、(イ) 撤去確認につきてはGRIの5名を以つて構成する調査団には異議なきやと確めたる処、異議なしとのこととなり。好ましからざる人物、例えば小山内某の如きものを入れることは不同意なりとの趣旨なりと説明す。日本側は本使の推せんするに委ねる旨につき、取りあえず本使、カトウ(OBONTA)三木の名を挙げ置けり。(弁務官自身案内すべしとのことなり)。(ロ)

436

秘

注意
 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

記者を同行せしむる件はこれを断りたしとのことにつき、記者会見を行ない場所、日時、何人がするかにつき今後検討することとす。(ハ) 区域外の調査は必要なしとのこと、及び化学中隊の器材は輸送船、人員は航空機により撤退せしむることとする旨説明ありたり。

3. 当地におけるドル問題につきましては、本使より本邦政府の学生送金及び生活必要物資の購入につきの措置につき説明す。その他の諸点につきましては今後共十分検討すべきも、問題は技術的なるを以てなかなか処置困難なり。米側においても検討あり度しと申し述べたる処、弁務官は課徴金のおきなわ適用取止め方ワシントンに申し送り居るも、未だ確答なしと申し述べ。

4. 本使より、今般来ちゆうしたる自民党国民運動本部のキヨノ事務局長を中心とする「ゆたかなおきなわを作る会」運動の目的、態容等につき説明し弁務官の協力と理解を求め置きたり。

5. なお、主席、立法院議員の任期延長につき、本使より言及したる処、未だ大統領の署名を得られざる模様にして、弁務官自身の強き願望にもかかわらず延引し居れりと内話す。なお本使より、ヤラ主席、立法院左派議員が辞表を提出する様ぎ異例の行動を若干制約し得る任期延長の発令は重要なりとの所見を申し述べ置きたり。

(丁)

外務省

極 秘
 無 期 限
 部 号 の内 号

次官
 法外務審判部
 条約課長
 安全保障課長
 アメリカ局長
 参事官
 北米第一課長

毒ガス撤去確認問題
 (在京米大法館より連絡)

26. 9. 3
 米北ノ

1. 9月3日、在京米大法館チャーマン参事官より
 北米ノ課(5名)に対し、要旨次のとおり
 連絡越した。

(1) 本3日 高瀬大佐とラポート高等弁務官の
 昼食を共にすア定るとは、席上「ラ」弁務官
 より、高瀬大佐に対し、「米側には毒ガス撤去
 の確認の問題を自ら raise するに
 reluctant であるか、尾良主席并環球

GA-5

2361 外務省

この問題については、米側の意向を十分に把握し、高瀬大佐とラポート参事官との交渉を促進し、早急な解決を図るべきである。

2

政府側から ~~要請~~ ^{強く求められ} 書面を呈した
 立入り検査に (reluctantly agree)
 同意するに同意するに同意する。
 5月の場合も本件は極力 low key に
 取り、即ち検査も琉球政府代表のみ
 により、現地限りで行うに同意する。
 考慮する、との趣旨を伝えた。
 (2) 当方より、右はワシントンと協議の結果
 取りやめられた。しかし、「シヤ」は、右は
 local な問題として在京米大使館と
 ワシントン事務局限りの決定が望ま
 れた。
 (2) 上記(1)(2)の趣旨は、沖縄委
 に通報済み。

外務省電信案 (分類)

機密 (極秘) 符号表示	暗	略	平	総第	号
無期限	第	号	第	号	号
部の内号	昭和 年 月 日 時 分 発		大至急・至急 普通・LTF 発電係		

大臣	主管	主管局部課 (室) 名
政務次官	アメリカ局長	米北局長
事務次官	参事官	起案 昭和46年9月3日
法務外務審議官	北米才一課長	起案者
外務審議官	官房長	電話番号
官房長		112中 2465

協賛先
 軍縮室長 条約課長 安全保障課長

(1) 在米 大河原代大使 臨時代理大使
 (2) 在神 高野大使 代理 大臣 発
 総領事 代理 大使 臨時代理大使 代理 総領事 代理

件名
 毒ガス撤去の確認問題
 (決定配布)
 3日在京米大使館 シヤーマン参事官より北米1課
 に対し、米側は毒ガス撤去の確認問題を自から
 raise するには reluctant であるが、屋良主席等
 琉球政府から強く求められれば、やむを得ず
 して立入り検査に同意する (reluctantly)

(※印刷内は電信標記入)

(昭和四二七一改正)

agree) ことにならう。その場合も本件は極力 low key におさえる。即ち検証も琉球政府代表のみにより、現地限りで行なうことにとどめたい考えであり、本件については本3日ランポート高等弁務官より高瀬大使に伝えられたことになつてゐる旨通報された趣である。

なお、その際先方に対しはワシントンに協議した結果なりやと質したところ、「シヤ」は本件は local な問題として在米米大使館とランポート弁務官限りの決定である旨述べたことと云ふ。

本電先 米、沖繩

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀総人電厚請
 書文会営総

電信写

総番号(TA) 45402 主管
 71年9月6日18時16分 沖繩 発
 71年9月6日18時30分 本省 着

調査長
 領移長
 参企析調
 参領旅査種

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(7日)

第962号 略 至急

往電第941号に関し

ア 参地中東
 長 北東西
 米 参北北保
 中南
 参一
 参西東洋
 長 西東

1. どくガス輸送船第5船マツクグロー号への積込みは7日から再開されるところ。6日午前10時半陸軍はよく7日0900、1100、1430の3回にわたりGB計240トン(毎回トレーラー10台で80トン)を移送すると発表した。(りゆう政渉外課によれば、本件発表が48時間前に為されなかつたのは、1部過激派学生が車両ぐんを爆破するとのうわさがあつたことによる由)

近ア
 参書近ア
 長 次総経国

2. なお、りゆう警本部によれば、7日から10日までの移送計画(第/回出発時間及びコンボイ数)次の通り。

7日 0900 3、 8日 0700 4、 9日 0700 4、 10日 0900 1。

長 参賀統国
 参政技二
 参政協長 国一理

(了)

長 参参協規
 参政経科
 長 軍社專
 参道内外
 長 一二

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

9/8

大政事外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

電信写

27

総番号(TA) 45589 主管
71年9月7日 17時10分 津 絶 発 米地
71年9月7日 17時14分 本 省 着 米地

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(7日)

ア 964号 甲
往電ア962号の同じ
午後2時35分 GJ 240トンの移送E) した。
るお本使ア1回目輸送の主な会つた。

(3)

ア 参地中東
長 北東西
参北北
中南
参一
参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
参統三万
参政技二
国一理
参条協機
長 参政経科
軍社專
参道内外
長 文長

外務省

(部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

98. 花地へ転電

秘

大政事外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

電信写

215

総番号(TA) 45629 主管
71年9月7日 21時00分 津 絶 発 米地
71年9月7日 21時19分 本 省 着 米地

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

ランパート・ヤラ会談

第965号 略 至急 (ゆう先処理)

本日午後3時半より2時間におたり、弁務官府においてどくガスにつきての会談を行ないたる処左記の通り。(弁務官、民政官、ヘイズ少将、クラーク局長、ノールズ顧問、ヤラ主席、大島部長及び本使列す)

1。米側より、チパナ地区内に RED HAT AREA あり、全部のガス兵器はその域内6/カ所のちよ蔵こに保管され居りたる処、はん送はスムーズに行なわれ、一両日後には全部のはん出完了さるべきこと、空となりたるたV蔵こはそのまま空にしあること、既にはん出したるものはGRIの検査所において安全度の確認、数量、重量の計算を了したる後、ゆい一の出入口より CONVOYを以つて船に積込むし組となり居り、既往のはん出分の数量と弁務官より発表したる全量の差がゼロとなりたる時が撤去完了となる訳にて、右に伴ない任務を終了せる267化学中隊はおきなわを撤去、ジョンストン島に駐留することとなる旨の説明ありたり。

ア 参地中東
長 北東西
参北北
中南
参一
参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
参統三万
参政技二
国一理
参条協機
長 参政経科
軍社專
参道内外
長 文長

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

2. 右に対しりゆう側より、267化学中隊は一部の分遣隊を「ヘノコ」「グシチャ」に駐留せしめ居り、右が残留するに非ずやとの質問を行ない、米側は全どくガス兵器はチバナにのみ保管され、267化学中隊は他の地域に分遣隊を持たずと申し述べ、なおりゆう側より、全軍労務の情報によれば「ヘノコ」に化学部隊ありとこのことを述べたるも、米側は明りようにこれを否定す。なお先般ヘイズ少将が社会党調査団に対し、化学中隊が他の場所に存在するやとの質問に対し、NO COMMENTと応えたる点につき、りゆう側より質問あり、同少将は他の場所はおきなわ以外と解したるを以つて右様応えたりと述べ。

3. どくガス兵器の全量撤去の確認につきては、米側、弁務官、ヘイズ少将、クラーク局長、ベイリー中さ、りゆう側は主席、副主席、大島部長、イラブ技師、立法院与野党代表各/名、本邦側は本使、カトウ局長、三木一さを以つて構成する調査団がこれを行なうこととなりたり。りゆう側より、復帰協、原水禁より小山内ヒロシを参加せしむるよう強き要請ありたりとて、同人の参加方を申し出でたるが、本使より立法院2代表の参加にて公共利益の保護はなし得べく、技術的には従来のTEAM WORKのとれた政府関係者が適格を有すること、小山内某を参加せしむる時は他より申し出でありたる際これを断る理由に困難すべ

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

し等、然るべく説得、りゆう側もこれをりよう承、右申し出では取り下げたり。

4. 確認の結果はこれを発表すべく、りゆう政としては主席及び別途大島が記者会見において行ない、要すればヘイズ少将、大島部長の両名により共同会見を行なうこととす。RED HAT AREA以外の地域にどくガスの存在なきことを確言し、化学中隊の撤去、軍労務者のRED HAT AREA出入禁止の解除等をばう証として挙げ、弁務官より主席あてに正式に全量の撤去完了したることの公文を送付することとなりたり。なお9月9日を以つて輸送を完了し、10日午前中に確認のためのTOURを行なうこととし、詳細の時間等はヘイズ・大島において協議することとす。

5. りゆう側より、先般の弁務官より4万ドルを越えざる金額をRED HAT OPERATIONに従事したるりゆう政職員の人件費として支出する書簡に言及、右を付近住民の区長等世話をなしたる者、市ちよう村のり員、りゆう政職員の特殊手当等にも適用したき旨を申し出て、弁務官これを承だくしたり。

6. 本日の米りゆう会談は、往來になく友好りに行なわれ、りゆう側も実際に難件の処理に当り種々の経験を積みたるものの如き口げつ、ちゆう論を行使せず、最後の段階

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

に入りたるどくガス撤去は無事実施を了するものの如く予感す。もつとも最後まで十分しゅう到なる配慮を要することとはもち論のぎなり。

(了)

外務省

秘

(部の内号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外機官

務務 典房
次次
巨官官審審長長
綱綱人電厚計
書文会管給

調 参企析調
査 長
長 領
領 移
移 長

ア 参地中東
長 北東西
長 参北北保
中 参一二
南 参西東洋
審 西東
歐 長

近 参書近ア
了 長
経 次総経国資
長 源

長 参貿統国万
経 参政技二
協 国一理
長 参参協規

長 参政経科
国 長
長 参軍社專
情 参道内外
長 文長

一二

外務省

総番号(TA) 45757 主管
71年9月8日 時15分 発着 米北1
71年9月8日 時16分 本省

外務大臣殿 有津(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくがす撤去(8日)

第968号 平

往電第964号に関し

8日のGB304,0トンの移送計画次の通り。

4	10	80.0	0700
5	10	80.0	0900
6	10	80.0	1100
7	8	64.0	1430

(了)

秘

ソカ

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

21

電信写

大政事外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

総番号(TA) 45793 主管
71年9月8日 17時50分 沖繩 発着 米北1
71年9月8日 18時06分 本省

外務大臣殿 高瀬 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(8日)

才969号 平
往電才968号に關し
8日は移送団船を1回増やし午後4時3分
GB 400トンの移送を了した。

調査長
領移長
參企析調
參領旅移

ア 參地中東
長 北東西
參北北保
中南審歐
參西東洋
長 西東

近ア長 參書近ア
長 次総経国万
長 參貿統国
長 參政技二
長 參政経科
長 參道内外
長 參道内外
長 參道内外

(部の内 号)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

26

電信写

大政事外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

総番号(TA) 45803 主管
71年9月8日 19時05分 沖繩 発着 米北1
71年9月8日 19時18分 本省

外務大臣殿 高瀬 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去

第971号 平 至急
往電第969号に關し

1. 8日ゆう刻大島部長は記者会見を行ない、9日の移送は午前7時より3回にわたって移送を行ない、11時過ぎ終了の予定と述べるとともに、質問に答えて撤去の確認は10日午前10時または午後1時に行なうよう米側に申し入れると述べた。
2. なお、移送終了後直ちに現地においてヤラ主席が移送完了に伴う声明を発表するとともに記者会見を行なう由

(了)

調査長
領移長
參企析調
參領旅査移

ア 參地中東
長 北東西
參北北保
中南審歐
參西東洋
長 西東

近ア長 參書近ア
長 次総経国資
長 參貿統国万
長 參政技二
長 參政経科
長 參道内外
長 參道内外

ソカ
ヒレ

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

31

電信写

大政事外外儀官
典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会當給

総番号(TA) 45985 主管
71年9月9日 10時40分 沖繩 発着 米北
71年9月9日 10時44分 本省 着
外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

毒ガス撤去(9日)

第972号平至急
注電第968号に同じ
9日 98 計 184.6 トン 9 移送計画
次9通リ

9 10 80.0 0700
10 8 64.0 0900
11 5 40.6 1100

(3)

調査長
領移長
参企析調
参領旅移

ア 参地中東
長 北東
長 北北
中南審
参西東洋
西東

近ア長経
参審近ア
次総経国資
源
長経協長
参實統国
参政技二
国一理
参協協
参政経科
長経協長
参協協
長国
参政経科
長軍社專
参道内外
二

外務省

料へ転送す

(部の内号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

84

電信写

大政事外外儀官
典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会當給

総番号(TA) 46019 主管
71年9月9日 14時10分 沖繩 発着 米北
71年9月9日 14時12分 本省 着
外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去完了

第973号平至急 (ゆう先処理)

往電第972号に関し
9日午前11時東オンナにおいて本使・ランパート及びヤ
ラとともに最終コンボイを見送った。なお、ヤラは現場に
おいて記者会見を行ない、別電の趣旨にて本件移送の完了
を声明した。
追って明朝8時半より267化学中隊において予定どおり
撤去確認の点検を行なう予定。
(了)

調査長
領移長
参企析調
参領旅移

ア 参地中東
長 北東
長 北北
中南審
参西東洋
西東

近ア長経
参審近ア
次総経国資
源
長経協長
参實統国
参政技二
国一理
参協協
参政経科
長経協長
参協協
長国
参政経科
長軍社專
参道内外
二

外務省

（ ） 部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

米大の電電

458

大政事外外務省

務務典房

次次

臣官官審審長長

備備人電厚詳

備備文会管給

調査長

参企折調

領移長

参領旅査

長

ア 参地中東

長 北 西

参北北保

中 参一

南 参西東洋

欧 参西東

長

近 参書近ア

ア 参書近ア

長 次総経国

参参統

長 参政技二

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

長 参政経科

参参協

電信写

総番号(TA) 46020 主管
 71年9月9日 14時12分 沖 統 発 米大
 71年9月9日 14時20分 本 省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去完了

第974号 平 至急 (ゆう先処理)

往電第973号別電

声明

おきなわけん民ならびに日本国民の関心の的であり、大きな政治課題でありましたどくガス兵器の撤去移送作業は去る/月以来、第1次、第2次と長期間にわたって実施されてきましたが、本日ここによく完了することができました。

私は、国際法上その使用を禁止され、人道的にも断じて許すことのできないどくガス兵器がおきなわに存在していることを知らされたとき、大きなしよう撃を受け、不安とさようふの念にかられながら、はらのそこから激しいいきどおりを覚えました。

そして、けん民とともに直ちに米国に抗議し、その即時完全撤去を要求しました。その結果、米軍も、これらの兵器を運び出さざるを得なくなり、いわゆる「レッドハット作戦」によつて、それが実現したのであります。これは、戦争を具体的に経験し、戦争とこれにつながる一切のものを

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

否定しようというおきなわけん民の正しい要求と行動の成果にほかならないのでありまして、私はその意味においてこれを高く評価するものであります。

私は、いまもうしよと異常干ばつという悪条件のもとで行なわれた第2次移送作業の状況を振り返るとき、おきなわけん民、とくに関係地域住民のにんたいとご協力に対し深くけい意を表し、感謝を申し上げるものであります。また、去る/月以来、安全対策の策定にじん力された専門家ならびに専門委員と関係職員ならびに実際の移送に立ち会い、これを見守つてくださった立法院議員各位に対し心から感謝申し上げるものであります。さらに、どくガス移送計画にあたり、対米せつしよや経費の負担にあつた本土政府のご協力ならびに関係機関団体、学者専門家のご指導、ご助言に対し深く感謝の意を表すものであります。

いま、一つ残された問題は、どくガス撤去の点検確認の点であります。これについては、直ちに具体的な方法を講じて実施する考えであります。

私は、おきなわからのどくガス撤去の達成という歴史的しゆん間を送るにあたり、全世界の人びとがどくガスのない、核のない、兵器のない、そして戦争のない真のこうきゆう平和の確立に一段と努力するよう心から訴えるものであります。

昭和46年9月9日

外務省

米大へ送るのみ

(部の内・号) 注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

24

- 大政事外務省
- 事務次長
- 典房
- 電信写
- 臣官官審審長長
- 機機人電厚計
- 書文会官総
- 調査長
- 領移長
- 参企析調
- 参領旅査移
- 参地中東
- 長北東西
- 米長北北保
- 中南番
- 参一
- 参西東洋
- 長西東
- 参書近ア
- 次総経国
- 長参貿統
- 参政技二
- 国一理
- 参多協規
- 長国参政経科
- 軍社専
- 長備内外
- 文長

総番号(TA) 46055
 71年9月9日 17時55分 主管
 71年9月9日 18時55分 本省 発着
 外務大臣殿 馬新 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去 (最終総括)

第978号 平

往電第948号 関し

- 1. どくガスの撤去は9日17時半GB/84, 6トンの移送終了をもつて全て終った。
- 2. 移送総量は、第1次のHD/50トンを含めて、HD 2, 865.0トン、GB 8, 322.1トン、VX 2, 056.6トン、計13, 243.7トンである。
- 3. 最終船マツクグロ一号は、10日午後4時てんがん港の予定。
- 4. 移送終了に当り、主席は東オンナにおいて記者の質問に対し次の通り語った。(カツコ内質問)
 - (1) (関係住民に対する補償はどうするのか) 早速検査実施する。
 - (2) (レッド・ハット・エリア以外の点検はしないのか) 昨日弁務官にも確めたが、レッド・ハット地域以外、例えばヘノコ、チネン等にもどくガスは絶対に無いとの事あつたので、行なわない。全地域の点検は容易なことでは

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

いので今後の問題と思う。

(3) (核の撤去についてどう思うか) どくガスのように比較的理理解し易いものでさえこれだけ住民を不安におとしいたのに、核兵器については、われわれは全く無知であるので、核撤去の問題は大変なことと思う。しかしこれは国と国との問題であるので、完全に撤去するよう要求するのは当然と思う。

(丁)

アメリ力局 436中

秘密標記 (赤色)

参事官

北米才一課長

() 第 534 号
昭和 46 年 9 月 9 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所
高瀬 代



(件名)
毒ガス撤去 (移送実績表)

引用公・電信
日付・番号 往電才 978号

琉政庁報譯作成の「毒ガス撤去移送
実績表」3部別添送付す。

付属添付 付属空便 (行) 付属空便 (DP) 付属船便 (貨) 付属船便 (郵)

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:

- 受処理
- 首席事務官
- 総務
- 沖繩
- 調査
- 漁業
- 航空
- 協力
- 連絡調整
- 調査
- 力夕
- 庶務



字
ONTA
JOA
厚
生
者
登
方
張
送
出
(
2
3
)

毒ガス撤去移送実績表

移送総量 / 3,243.7トン

(イ) 第1次、第2次の移送内訳

期 間	日 数	輸送車群回数	トレーカー台数	移送量	備 考
第一次 1月13日	1	2	9	150.0	HD
第二次 7月15日 ～9月9日	34	136	131.9	13093.7	HD、GB、VX
計	35	138	132.8	13243.7	

(ロ) 種別移送量

HD 2,865.0 (21.6%)
 GB 8,322.1 (62.8%)
 VX 2,056.6 (15.6%)

(ハ) 船別移送費

船 名	種 別	回 数	トレーカー台数	積込量	種 別	
					HD	VX
1 1月13日	HD	2	9	150.0		
2 7月15日～7月25日	HD	44	432	5,306.0		
3 7月28日～8月 8日	HD	22	217	1,855.3		
4 8月11日～8月18日	HD	26	229	2,299.3		
5 8月22日～8月27日	HD	34	338	2,808.5		
6 9月 7日～9月 9日	VX	11	103	824.6		
計		139	1,328	15,243.7		

(ニ) 移送実績開べ 別 紙

移送日数	月日	種別	1日当り			通算			積込量	船別積込量	種別別移送量			備考
			回数	台数	量	回数	台数	量			HD	GB	VX	
1	7月15日	HD	5	46	589	5	46	589	シーリフト号	589			シーリフト号積込	
2	16	HD	4	40	479	9	86	1,068	↑	1,068			シーリフト号積込 積込完了 出港(26日)	
3	17	HD	4	40	457	13	126	1,525	(左に同じ)	1,525				
4	18	HD	5	50	514	18	196	2,039		2,039				
5	19	HD GB	4	40	444	22	216	2,483		2,335	148			
6	20	GB	2	20	356	24	236	2,839		504				
7	21	GB	2	20	356	26	256	3,195		860				
8	22	GB	4	40	587	30	296	3,782		1,447				
9	23	GB	5	50	580	35	346	4,362		2,027				
10	24	GB	5	49	564	40	395	4,926		2,591				
11	25	HD	4	37	380	44	432	5,306	↓	2,715				
12	26												シーリフト号積込 積込完了 出港(26日)	
13	27													
14	28	GB	4	39	263.1	48	471	5,569.1	シーリフト号	2,854.1				
15	29	GB	4	40	280.8	52	511	5,849.9	←シーリフト号	3,134.9				
16	30	GB	4	40	305.4	56	551	6,155.3	263.1	3,440.3				
17	31	GB	4	39	372.4	60	590	6,527.7	543.9	3,812.7				
18	8月1日								849.3					シーリフト号積込 積込完了 出港(26日)
19	2								1,221.7					
20	3													
21	4													
22	5													
23	6													
24	7	GB	4	40	424.0	64	630	6,951.7	1,545.7	4,236.7				
25	8	GB	2	19	209.6	66	649	7,161.3	1,855.3	4,446.3				
26	9													
27	10													
28	11	VX	4	37	437.9	70	686	7,599.2	ミラー号	4,37.9				
29	12	VX	4	40	347.2	74	726	7,946.4	437.9	4,37.9				
30	13	VX	3	30	242.0	77	756	8,188.4	785.1	785.1				
31	14	VX	3	29	318.1	80	785	8,506.5	1,027.1	1,027.1				
	21								1,345.2	1,345.2				

シーリフト号積込
積込完了
出港(26日)

シーリフト号積込
積込完了
出港(26日)

シーリフト号積込
積込完了
出港(26日)

シーリフト号積込
積込完了
出港(26日)

シーリフト号積込
積込完了
出港(26日)

移送日数	月日	種類	1日当り			通算		船別 荷込量	種別移送量			備考
			回数	台数	量	回数	台数		量	HD	GB	
22	15	VX	3	24	251.6	83	809	8,758.1	1,596.8	1,596.8		
23	16	VX	3	30	198.2	86	839	8,956.3	1,795.0	1,795.0		
24	17	VX GB	4	31	364.7	90	870	9,321.0	2,159.7	4,549.4	2,056.6	
25	18	GB	1	8	139.6	91	878	9,460.6	2,299.3	4,689.0		ミラー号完了 出港(19日)
	19											
	21											
26	22	GB	6	60	512.1	97	938	9,972.7	シ-リ-ト号 512.1	5,201.1		シ-リ-ト号 概込
27	23	GB	5	49	411.5	102	987	10,384.2	923.6	5,612.6		
28	24	GB	5	50	452.1	107	1,037	10,836.3	1,375.7	6,064.7		
29	25	GB	5	49	392.8	112	1,086	11,229.1	1,768.5	6,457.5		
30	26	GB	6	60	480.0	118	1,146	11,709.1	2,248.5	6,937.5		
31	27	GB	7	70	560.0	125	1,216	12,269.1	2,808.5	7,497.5		シ-リ-ト号 出港
	28											
	6											
32	7	GB	3	30	240.0	128	1,246	12,509.1	シ-リ-ト号 240.0	7,737.5		シ-リ-ト号 概込
33	8	GB	5	50	400.0	133	1,296	12,909.1	640.0	8,137.5		
34	9	GB	3	23	184.6	136	1,319	13,093.7	824.6	8,322.1		

（ ） 部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外儀官 電信写

事務次長
大臣官審審長
儀入電厚
書文会管統

総番号(TA) 46311
71年9月10日15時45分 沖(糸) 主管
71年9月10日15時47分 本省 着 米七

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(確認)

第982号 平 至急

往電第978号に関し

1. 予定されたるどくガス兵器の確認は、本朝8:30より3時間にわたり、6/のIGLOO全部の点検を了し、その全部が空で何物も残し居らざることを確認した。
2. 確認TEAMは本使、弁務官、ヤラ主席、ヘイズ少将、ベイリー中佐、クジャク局長、チペナ立法院議員、ナカヤマ立法院議員、大島部長、イラフ技師、オオシロ秘書、カトウおきなわ事務局長、三木一さの計/3名よりなり、チペナ地区内レッド・ハット・エリア(約27万坪)のIGLOO6/カ所の全てを各個に立入り点検し、どくガスが撤去されかつ一物も残さざることを確認した。
3. 弁務官より、レッド・ハット・エリア以外にはどくガスは保管せられたることなく、かつまた、存在せざる旨及びおきなわからどくガスは昨日をもつて全部撤去された旨の確言があつた。
4. 第267化学中隊は、9月27日ころ全員を「ツ」

調査長
参企析調
領移長
参領旅査

ア 参地中東
長 北東西
米北
中南
参一
参西東洋
長 西東

近ア
参書近ア
長 次総経国
参統
参政技二
長 国一理
参協規
長 参政経科
長 専
参道内外
長 文
一

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

島に空輸する。

5. 値るいガス等はどくガスではないので、おきなわに残っているが、その管理は第196武器大隊が通常兵器と同様これを行なう。(点検の結果につれ)
6. 点検終了後相互に確認を行なつたが、弁務官より主席あて「おきなわからどくガス全量を撤去した旨の書簡を主席あてに発出すべきこと」及び写しを当方に送付越すこととなつた。
7. 最後に主席より、弁務官に対し「本日最後の点検を実施してレッド・ハット・オペレーションが米側にとつても大変であつたことをつう感し、謝意を表す。早速撤去確認につぎけん民に伝え、安心してもらう」と述べ、弁務官より、「本作戰は規模は小さいが世界平和へのシンボルであると思う」と答え、ことのほか友好的ふん囲気で確認の作業を終了した。
8. IGLOOの詳細を記入した点検用地図空送する。(了)

アタリ方局長
7/参事官
北米一課長

秘密標記(赤色)

第 538 号
昭和 46 年 9 月 16 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所
高瀬代

(件名)
毒ガス撤去(声明文等)

引用公・電信
日付・番号 往電才 973号

毒ガス移送才船マツクロー号は最後の
船積みを経て9月10日午後4時ジヨンスト
ン島へ向け出航したため、移送完了並に撤
去確認に關するショート高等弁務官、屋良

付属添付 付属空便(行) 付属空便(DP) 付属船便(貨) 付属船便(郵)

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:

GA-3-1

要処理
首席事務官
総務
沖田
田中
野村
佐藤
高瀬
局庶務

46.9.17

アタリ方局長
7/参事官
北米一課長

主席の声明文等下記のとおり各一部別添
送付す。

記

1. 9月9日付屋良主席「声明」
2. 9月10日付高等弁務官ステートメント
3. 同 屋良主席談話「毒ガス兵器撤
去査察確認について」
4. 同 東原水城事務局長の「毒ガス
兵器の完全撤去確認に對する談話」

GA-4

声 明

沖縄県民ならびに日本国民の関心の的であり、大きな政治課題でありました毒ガス兵器の撤去移送作業はさる1月以来、第1次、第2次と長期間にわたって実施されてきましたが、本日ここにようやく完了することができました。

私は、国際法上その使用を禁止され、人道的にも断じて許すことのできない毒ガス兵器が沖縄に存在していることを知らされたとき、大きな衝撃を受け、不安と恐怖の念にかられながら、腹の底から激しい憤りを覚えました。

そして、県民とともに直ちに米国に抗議し、その即時完全撤去を要求しました。その結果、米軍も、これらの兵器を選び出さざるを得なくなり、いわゆる「レッドハット作戦」によつて、それが実現したのであります。これは、戦争を具体的に経験し、戦争とこれにつながる一切のものを否定しようという沖縄県民の正しい要求と行動の成果にほかならないのでありまして、私はその意味においてこれを高く評価するものであります。

私は、いま猛暑と異常干ばつという悪条件のもとで行なわれた

NEWS RELEASE:

OFFICE OF THE
INFORMATION COORDINATOR
OFFICE OF THE HIGH COMMISSIONER
Tel: 57107

STATEMENT BY HIGH COMMISSIONER UPON COMPLETION OF OPERATION RED HAT

Sukiran, Okinawa, Sept. 10 -- Today the USNS Private Francis X. McGraw departed for Johnston Island with the last of the toxic chemical munitions which were stored on Okinawa. The sailing of this ship completed Operation Red Hat and the safe removal of all toxic chemical munitions from the Ryukyu Islands.

This operation was an outstanding example of cooperation between United States Government and the Government of the Ryukyu Islands in achieving a common objective. The devotion to duty and professional skill of a large number of highly qualified American and Okinawan personnel made it possible to complete the removal operation safely and within the planned time period.

I extend to all Americans and Okinawans involved in the removal operation my deep appreciation for their successful efforts.

(END)

レッド・ハット作戦の完了に際して発表されたランパート高等弁務官のステートメント

スケラン, 沖縄, 9月10日 -- 米海軍軍用船, フライベート, フランシス, X. マックグロー号は、沖縄に貯蔵されていた毒性化学兵器の最後の出荷分を積んで、今日、ジョンストン島に向け出発した。同船の出港で、レッド・ハット作戦は完了し、沖縄からすべての毒性化学兵器が安全に撤去されたことになる。

この作戦はお互いの共通の目的を達成するに当って、琉米政府が緊密な協力をしたことを示すものである。多くの有能な琉米関係者が任務を忠実に遂行し、その専門的な技術を十分発揮したことによつて、撤去作業は安全かつ予定の期間内に終了することができた。

私は、撤去作業を成功裡に完了させたすべての琉米関係者に衷心より感謝の意を表するものである。

(完)

第2次移送作業の状況を振り返るとき、沖縄県民、とくに関係地域住民の忍耐とご協力に対し深く敬意を表し、感謝を申し上げます。また、さる1月以来、安全対策の策定に尽力された専門家ならびに専門委員と関係職員ならびに実際の移送に立ち会い、これを見守つてくださった立法院議員各位に対し心から感謝申し上げます。さらに、毒ガス移送計画にあたり、対米折衝や経費の負担にあつた本土政府のご協力ならびに関係機関団体、学者専門家のご指導ご助言に対し深く感謝の意を表すものであります。

いま、一つ残された問題は、毒ガス撤去の点検確認の点であります。これについては、直ちに具体的な方法を講じて実施する考えであります。

私は、沖縄からの毒ガス撤去の達成という歴史的瞬間を送るにあたり、全世界の人びとが毒ガスのない、核のない、兵器のない、そして戦争のない真の恒久平和の確立に一段と努力するよう心から訴えるものであります。

昭和46年9月9日

琉球政府
行政主席 屋良朝苗

毒が久兵衛撤去
 上検査確認に付て

昨九日下神鏡に貯蔵された毒
 久兵衛一万三千二百四十二ト二が金量
 撤去され陸上輸送されたニモ米軍は
 於意した。

之れを大検査確認するに依り撤去
 府代表として主席、大島浩外都長
 伊豆郡忠男毒が久撤去対策本部
 専門委員、知事兼夫立強被議員
 中山重敏立強被議員の五人が本日
 (十日)午前十時半から十時半までの三時
 間、あつて米軍代表、日本政府代表と日
 心毒が久兵衛が貯蔵されてたに付て
 下、ハトエヤとわぬる地域へ立入
 り、之れを大検査した。

④ 毒が久兵衛撤去、毒が久兵衛貯蔵
 庫の敷、面積、範圍、一般彈藥庫
 との区分、相違、持込等について
 地域の内倉に付て説明を受け、
 その後大検査に付て

① ハトエヤ地域は、一般彈藥庫
 庫上区分、水、金網を付て、
 水、火の敷は存在するに
 外、形、内、即ち他の区分に及ぶ
 倉、ハトエヤ地域内の、
 ② 正、時、自、吹、流、し、か、立、て、な、
 ③ 地域の中には、論、察、所、各、分、に、
 状態を把握し、報告する、警、備、也。
 ④ 又、一時の特殊な施設があるに、
 水、火、は、この地域に入ら、
 特別の手配をとり、
 携、帯、水、入、れ、た、に、

米軍の説明に付て

3

5. この区域内に数面延びる十中五箇
 之に於て、
 境の護明を要す。この中に、
 の各不測の「び」を要検する。
 その結果「ハ」イリヤ中に
 ある六十のイリヤは、毒が入る
 地帯無のあり、その範圍全量が撤去
 され、これを確認し、
 此に「ハ」イリヤ以外
 するもの、地帯に於て、毒が入
 る地帯撤去され、かどかど、
 とに「ハ」イリヤに「ハ」イリヤ
 に要す。この区域内にも毒が入る
 中、この区域内にも毒が入る
 は「ハ」イリヤに「ハ」イリヤに
 言明し、この「ハ」イリヤに

4

手交すことを確認した。
 母本隊には、隊二から七位隊中隊百十
 人如九月二十七日、シヨムス、船へ出航
 する目的を明らかにした。
 使用については他の弾薬を入手する
 いうこと。「ハ」イリヤ、イリヤの
 全量はそのままの「ハ」イリヤ
 開放することとミ軍は明らか
 にした。
 以上を、知在区域に野戦
 され、この毒が入る全量撤去
 したことを「ハ」イリヤに
 一から九月十日
 点検確認者
 行政長官 三原良朝 指
 導 伊良部 伊良部
 主任委員 知在 莫夫
 中山 兼 順

毒ガス兵器の完全撤去確認に対する強硬

原水爆禁止野党議員会
事務局長 東南友

今回、毒ガス兵器の完全撤去に因り各強硬は余りにも果敢を無視した。ナリ力過剰の形式的名もたて言え。それ確認のこの地域が限定され、米軍逆陣の限られぬ点検人員によるナリ力側へ有利な立場をなすことでも明らかである。

毒ガス兵器の完全撤去と令後も持ちこたすべし。この確信がある。二水素で、貯蔵庫が如何の破壊を必要とせざり、毒ガス兵器の完全撤去を確保し、その貯蔵庫の破壊と地域の解放、その金基地の拠点撤去のための確証の意味をなす。その貯蔵庫がそのナリ力側を致さざるナリ力、令後も持ちこたすべし。この前根であり、強硬から完全撤去、ナリ力側の強硬であると同時に、その貯蔵庫に引込統一戦へ兵隊の住いに行きこしを解かす。日本統治政府が果敢に自信をもつて完全撤去を説明出来るとすれば、貯蔵庫を完全に破壊してその地域を金農民に解放して確認させる旨の自信が必要である。

また、米軍は、その野戦庫は毒ガスを貯蔵して浪地獄時、長期向の目的を達成するに必要とする。その急務を、その由り、毒ガス以外に使用することには二次的である。

毒ガスを貯蔵し、米軍が毒ガスを貯蔵せしめ、毒ガスを現在、地域を今

毒ガスを貯蔵し、米軍が毒ガスを貯蔵せしめ、毒ガスを現在、地域を今

毒ガスを貯蔵し、米軍が毒ガスを貯蔵せしめ、毒ガスを現在、地域を今

一九七二年九月十日

アメリカ局長

秘密標記 (赤色)

参事官

北米才一課長

319 200-入三

第 549 号

昭和 46 年 9 月 16 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所
高瀬 代



(件名)

毒ガス撤去(確認点検用地図)

引用公・電信
日付・番号

9月10日付 往電第982号

知花弾薬庫地域、レッド・ハット・エリア内 IG200の

詳細を記入した標記資料4部別添送付する。

付函添付 付函空便 (行) 付函空便 (DP) 付函船便 (貨) 付函船便 (郵)

本信送付先:

本信写送付先:

配付先:

GA-3-1

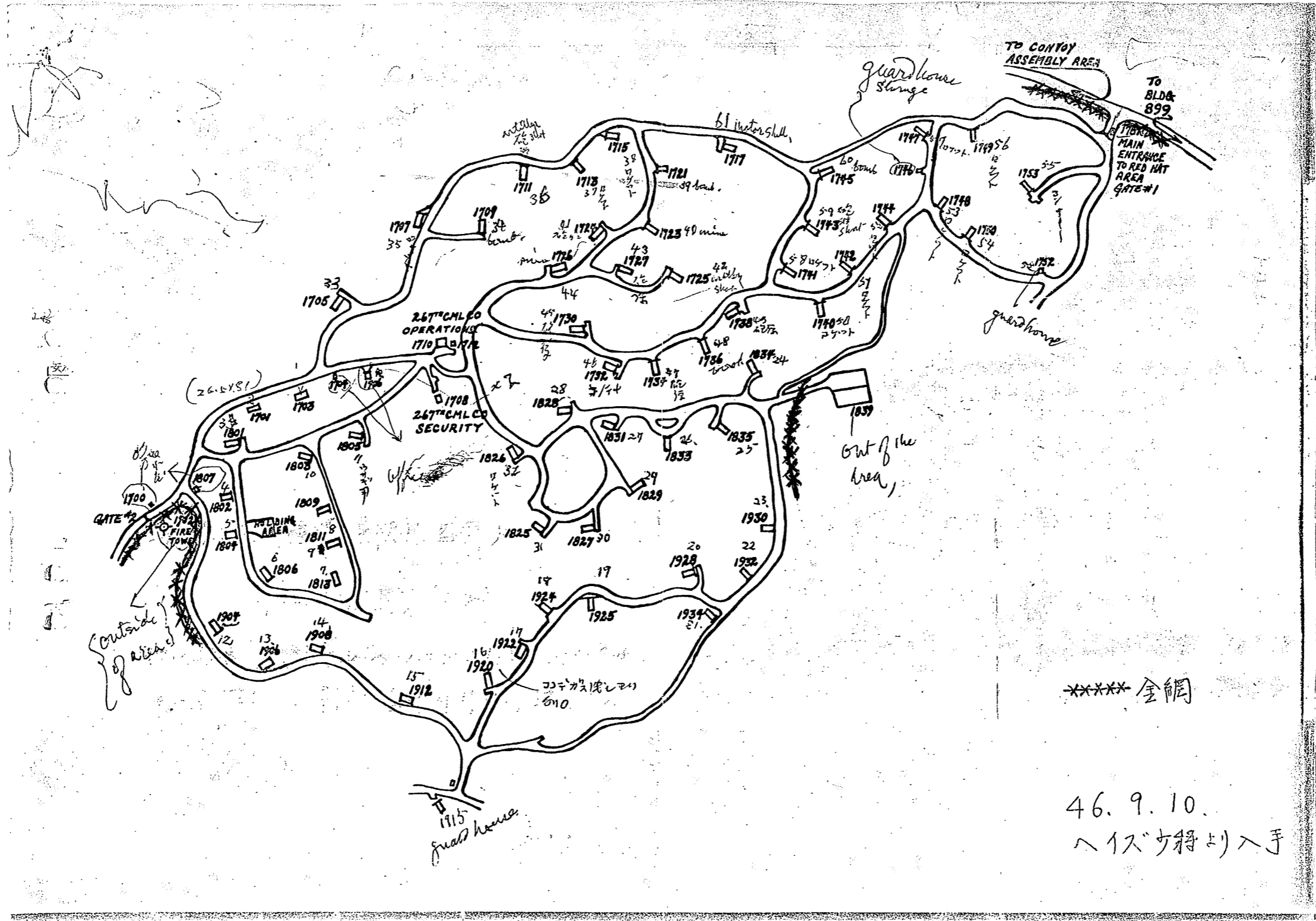
2526 在外公館

- 処理
- 首席事務官
- 総務
- 沖経
- 渉外調整
- 漁業
- 航空
- 科学協力
- 連絡調整
- 調査
- その他
- 庶務



送中

UNITA, JVA, USA, 豊登, 厚生, 兵士, (2)



***** 全網

46. 9. 10.
 ↳ 1ス少将より入手

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政專外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

総番号(TA) 48493 主管
71年 月 2 日 14時 50分 発 着
71年 9 月 2 日 10時 5 分 本 省 着

外務大臣殿 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(弁務官の書簡)

第1013号 平

往電第982号6. に関し

米側より、9月20日付弁務官発主席あて書簡(おきなわからすべてのどくガス兵器が撤去された旨を記載)の写を送付越したので空送する。

(了)

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中南審 参一二
吹 参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
経 源

長 参質統
経協長 参政技一理
参 国企二

参条協規
長 参政経科
国 専社専
長 参道内外
文 長 一二

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政專外外儀官
務務典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会營給

総番号(TA) 49127 主管
71年 9 月 23 日 17時 20分 発 着
71年 9 月 23 日 17時 20分 本 省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

防衛政務次官来ちゆう

第1020号 平

往電第1010号 に関し

防衛政務次官一行は、23日午後4時当地着。本使と会談後当事務所において記者会見したところその概要次の通り
①(カツコ内質問)

1. 来ちゆうの目的は、(1) 基地問題に関し地主との話し合い、(2) 自衛隊のおきなわ配備に関しけん民との話し合いをするためである。

2. (軍用地の強制使用の立法について)

未だ取扱いについて決定していない。地主と十分話し合つて継続使用するようにしたい。立法は十分に地主と話し合いをする時間をもうけるのが真のねらいである。

3. 自衛隊配備と基地問題が解決しない場合、返かん協定の批准が困難になるおそれがあるので個人的に心配している。

(そのような兆候があるのか)

兆候があるわけではないが、そのような事態にならない

調査長 参企折調
領移長 参領旅査移

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中南審 参一二
吹 参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
経 源

長 参質統
経協長 参政技一理
参 国企二

参条協規
長 参政経科
国 専社専
長 参道内外
文 長 一二

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ように全力を傾注して御理解を得るようにしたい。特にこれは防衛庁がちゆう実に職務を果して行く心構えを申し上げたものである。

4. (協定のA及びB表から削除または追加されるものはないか)

(1) 基地返かんについては復帰後も米軍と話し合う必要があるが今の時点では削除はない。

(2) 追加されるものはあり得ない。

5. (A表の一時使用の基地についても特別立法するのかわ)

(1) 七つあるがそのうち四つについては既に市ちよう村との話し合いが出来ており、他についてもままとまりつつあると聞いている。

(2) 話し合いが成立しない場合は理論的には特別立法のわくに入ると思う。

(3)

外務省

秘密標記(赤色)

アミカ力局長
参事官
北米課長

第 563 号
昭和 46 年 9 月 23 日

外務大臣 殿

在 準備委代表事務所
高瀬

米木 (3)

手
J
A
O
N
T
A
乃
生
野
子
長
也
生
し

(件名) 毒ガス撤去確認(弁務官書簡)

引用公・電信
日付・番号 往電オ1013号

今般、フィリピン民政官より、毒ガス撤去確認及び「レポート」国防長官の謝意信達に
関する書簡字を送付差ししたので、右書簡
和英両文各1部別添送付する。

付属添付 付属空便(行) 付属空便(DP) 付属船便(貨) 付属船便(郵)

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:

GA-3-1 2609 在外公館

受取差
首席事務官
燃務
沖總
外調
査
空
協力
連絡調整
編査
カナダ
事務

46.9.25

THE CIVIL ADMINISTRATOR

21 September 1971

The Honorable Jiro Takase
Ambassador
GOJ Representative to the
Preparatory Commission

Dear Ambassador Takase:

General Lampert asked me to have the enclosed copies of two letters he has written to Chief Executive Yara delivered to you. The original copies of the letters are being handcarried to Chief Executive's office this morning.

With warm regards,

Sincerely,

Bob Fearey

Robert A. Fearey

THE UNITED STATES HIGH COMMISSIONER
RYUKYU ISLANDS

20 September 1971

Dear Mr. Yara:

I wish to express to you and to the many members of the Government of the Ryukyu Islands who participated in Operation Red Hat my sincere appreciation for the cooperation which made possible the complete removal of all toxic chemical munitions from Okinawa safely and within the planned time period.

As I previously informed you, all toxic chemical munitions which had been stored on Okinawa prior to the completion of Operation Red Hat were stored within the Red Hat area of the Chibana Ammunition Depot. No toxic chemical munitions were stored at any other location in the Ryukyu Islands. With the departure of the USNS Private Francis X. McGraw for Johnston Island on 10 September 1971, all toxic chemical munitions have been removed from the Ryukyu Islands.

Sincerely,

J. B. Lampert

J. B. LAMPERT
Lieutenant General, United States Army

The Honorable Choby Yara
Chief Executive of the
Government of the Ryukyu Islands
Naha, Okinawa

THE UNITED STATES HIGH COMMISSIONER
RYUKYU ISLANDS

1971年9月20日

沖縄那覇市
琉球政府行政主席
屋良朝苗殿

謹啓

私は、レッド・ハット作戦に参加された貴殿並びに多くの琉球政府職員に
対し、心から感謝申し上げたいのであります。皆様の協力のお蔭で、沖縄
からすべての毒性化学兵器が安全かつ予定期間内に完全に撤去されました。

さきにお知らせした通り、レッド・ハット作戦完了まで沖縄に貯蔵されて
いた毒性化学兵器は、すべて知花弾薬庫のレッド・ハット地域内に貯蔵され
ていました。琉球列島内の他の如何なる場所にも毒性化学兵器が貯蔵され
たことはありません。1971年9月10日、ジョンストン島向け出港した
米海軍輸送船フランシス・X・マクグロー号によつて、すべての毒性化学兵
器が琉球列島から撤去されたこととなります。

敬具

米陸軍中将
J. B. ランバート

THE UNITED STATES HIGH COMMISSIONER
RYUKYU ISLANDS

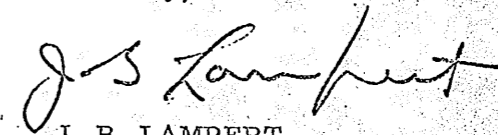
20 September 1971

Dear Mr. Yara:

I have received a message from Secretary of Defense Melvin R. Laird asking that I pass on to you his personal thanks and gratitude for your great assistance in ensuring the safe and orderly removal of all of the toxic chemical munitions from the Ryukyu Islands.

May I, at this time, add my personal thanks to that of Secretary Laird's for your understanding cooperation.

Sincerely,



J. B. LAMPERT
Lieutenant General, United States Army

The Honorable Choby Yara
Chief Executive
Government of the Ryukyu Islands
Naha, Okinawa

THE UNITED STATES MILITARY COMMISSIONER
RYUKYU ISLANDS

1971年9月20日

沖縄那覇市
琉球政府行政主席
屋良朝苗殿

謹啓

琉球列島からすべての毒性化学兵器を安全かつ秩序よく撤去することを保証する上で、貴殿の大いなる御助力があつたことに対して、メルビン・R・レアード国防長官から、貴殿に心から感謝の意をお伝えするようメッセージがありました。

貴殿の理解ある御協力に対して、私はレアード長官の謝意と共に私自身の感謝の意をここに表明するものであります。

敬具

米国陸軍中將

J. B. ランバート

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

137

電信写

大政事外外儀官

務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

総番号(TA) 50084 主管
71年9月8日14時30分 件 緋 発 北1
71年9月8日14時47分 本 省 着 北1

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(化学中隊の移駐)

第1024号 平

往電第982号に関し

1. 第267化学中隊は、27日午後3時ハンビー飛行場において撤退式を行なった後、同6時カデナ空軍基地より「シ」島へ向け出発した。

2. 本朝のタイムス及び新報は本件撤退式を報道するとともに、中隊員180名中「シ」島向け出発したものが85名に止まり残余は第2兵たん部の関連部隊に配置換えになっていること及び、昨27日ナハ港に「シー・リフト号」が入港したこと等に関連させ、どくガス兵器の完全撤去に疑義あるが如き報道を行なっている。(米軍ニュースリリース及び記事切ぬき空送する)

(了)

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中 参一二
南 参西東洋
審 西東
欧 長

近ア 参書近ア
長 次総経国資源
経 参質統国
長 参政技一理
協 国企二
長 参条協規
国 参政経科
長 参道内外
文 一二
長

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

145

電信写

大政事外外儀官

務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計
書文会営給

総番号(TA) 50323 主管
71年9月29日12時25分 件 緋 発 北1
71年9月29日15時06分 本 省 着 北1

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(化学中隊移駐)

第1027号 平 至急

往電第1024号に関し

報道調整官ウツドサイド大さが28日三木に語ったところ次の通り

1. 第267化学中隊は編成定員16名、レット・ホット・オペレーション時の現員130名であったがそのうち85名が27日輸送機2機で「シ」島に移駐した。残余は一般兵たん支援及び保安業務要員が第2兵たんコマンドに配置替えされたほか一部が本国に除隊帰国した。

2. シロリフト号は「シ」島から空船で来ちゆうし、修理済の車両及び一般予備部品を積み、27日サイエトナムに向けナハ港を出港した。今後同号はおきなわとサイエトナム間の一般輸送に当る予定である。

(了)

(子スニ 1615 29/9)

ア 参地中東
長 北東西
参北北保
中 参一二
南 参西東洋
審 西東
欧 長

近ア 参書近ア
長 次総経国資源
経 参質統国
長 参政技一理
協 国企二
長 参条協規
国 参政経科
長 参道内外
文 一二
長

外務省

秘密標記 (赤色)

アメリカ局長?
参事官
北米一課長

米保課
報告

第 571 号

昭和 46 年 9 月 30 日

橋中

外務大臣 殿

在 準備委代表事務所
高瀬 代



縦
査
査
査
査
査
査
査

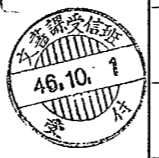
手
内
米
保
課
利
キ
ト
リ

12
DFA
JDA
生
學
空
ONTA
生
ミ

(件名)
毒ガス撤去(化学中隊の移駐)米軍=エズ"ソリース"

引用公・電信
日付・番号 9月28日付 往電第1024号

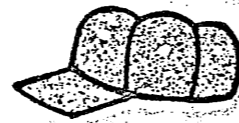
標記資料 2部別添送付する。



付属添付 付属空便(行) 付属空便(DP) 付属船便(貨) 付属船便(郵)

本信送付先:
本信写送付先:
配付先:

RED HAT



AWARDS CEREMONY

HAMBY PARADE FIELD

OKINAWA

Sept. 27, 1971

レッド ハット 物語

レッド ハット作戦は在沖陸軍、特にオ2兵站部隊が経験した最大の挑戦の一つであった。その完全な計画及び完璧な任務遂行が高度の専門技術と技能を立証した。

9月9日午前11時16分、毒性化学兵器の最終カンボイが天願棧橋に到着し、35日にわたる2次移送作戦の完遂を告げた。

総計13,243.7トンの化学兵器が知花弾薬庫から撤去された。このプロジェクトで、レッド ハット地域から天願棧橋までの8マイルの道程に148カンボイのトレーラー1,322台が使用された。

化学兵器撤去に関連した様々な作業を達成するため多勢の隊員が配置された。1600人を越える陸軍、海軍及び沿岸警備隊員が直接この作戦に関係した。その中の926人がオ2兵站部隊に配属された隊員である。

9月10日(金曜日)、この作戦に使用された移送船の1隻、米国海軍船舶フランス X. マクグローがジョンストン島向け出航した。同船舶は沖縄から最後の化学兵器を積み、新しい化学兵器貯蔵施設が完成されたジョンストン島へ向つた。ジョンストン島はハワイの南西約700マイルの太平洋上に位置している。

化学兵器貯蔵に関連した任務を遂行するため、オ267化学中隊はジョンストン島に配置された。

プログラム

レッドハット表彰及び閲兵式

閲兵将官： ジェームス B. ランバート中将
ホスト： ジョン J. ヘイズ少将
軍隊司令官： トーマス G. フロスト大佐

式 順

時間	事 項
	隊員整列
	ランバート中将、ヘイズ少将及び来賓の到着。入場演奏—国歌（全員起立）
	閲兵
	中隊及び隊員の表彰
	ランバート中将の挨拶
	ヘイズ少将の挨拶
	部隊及びレッドハット隊の退場行進（国旗に対し全員起立）
	軍歌演奏で式典終了。

受 賞 者

＝ 勲功賞 ＝

イマニウエル P. アルホード大佐
G. E. マクカンドレス大佐
ミツチエル グッドマン少佐
J. リリーダミレス少佐
ジョージ ジャクソン少佐
ウィリアム E. ゴーフオート大尉
ルイス スピツフアデン 上級准尉
アルビン マクブライド 1等軍曹

＝ 陸軍功労章 ＝

ジャック L. エバンズ 大尉

レッドハットプロジェクト期間の顕著な功績を表彰し、他の賞状が次の表彰式に於いて授与される。

オ 267 化学 中隊

アラスカ州、アダックに於いて1945年4月20日に編成されたオ267化学中隊は陸軍弾薬補給の歴史を持つ。1945年11月～1962年11月の期間、当時、オ267「サービス小隊」として知られていた同中隊は解散された。同年12月、再び編成され、今度はオ267化学小隊として太平洋地域米国防軍へ配属された。

1965年11月、同小隊は中隊規模に拡大され、在沖米国防軍廠へ配属された。その後、オ2兵站部隊直属軍隊司令部へ配置された。1966年3月、同中隊は弾薬業務局下に編成された。

オ2兵站部隊使命達成への顕著な功績に対し、1968年11月8日、オ267化学中隊は中隊功労賞を受けた。1965年10月31日～1966年12月31日の期間、東南アジアに於ける軍隊作戦の顕著な支援に対し同中隊は表彰を受けた。

レッド ハット移送期間中、オ267化学中隊は貯蔵及び移送中、化学弾薬の監視役として活躍した。これには、万一の漏れに備え特別に訓練された消去チームを配置し、実際の弾薬積込みに於ける補佐役として多様な任務を含む。

ウィリアム E. ゴーフォート大尉の指揮下で、オ267化学中隊は今度、ジョンストン島へ移動する。当地に於いて、同中隊はレッド ハットプロジェクトの下に移送された化学弾薬の保全及び保護任務を続行する。

高等弁務官功労賞

高等弁務官功労賞は1971年1月5日～1971年9月13日に行われたレッド ハット作戦中、毒性化学兵器の迅速、効果的な撤去達成に於ける顕著な業績及び功績を表彰し、授与される。

沖縄から毒性化学兵器を安全に撤去するこの高度な慎重を要する作戦及びオ2兵站部隊の努力は世界の注目の的であつた。

この複雑な使命が重大な事故もなく、地域住民及び全関係者に対し全く安全に達成されたことはこれから中隊々員への賞讃であり、これら中隊メンバーの専門技術と献身さは沖縄の多くの高官及び日本政府にも明白に認められた。

最も困難な状態に於けるこれら中隊の顕著な業績はこれから高官から幾多の賞讃の辞を受け、世界的な懸念を大きく減ずる結果をもたらした。

これら中隊々員の専門技術、任務に対する能力と献身さは軍隊の最高伝統と調和し、隊員自身、オ2兵站部隊、更に米国防軍の榮譽となる。

高等弁務官功労賞を受ける中隊

レッド ハット 作戦期間中、当局はこの任務を完遂するためオ 2 兵站部隊配下の諸中隊の能力に大きく期待し、これら中隊はレッド ハット 任務の効果的達成に特殊な専門知識及び技能を発揮した。

オ 2 兵站部隊本部及び本部中隊はレッド ハット のあらゆる業務完遂に指導的役割を果たした。オ 2 兵站部隊司令官、ジョン J. ヘイズ少将はレッド ハット 指揮官として全作戦を指揮した。

オ 196 兵器大隊及び所属中隊は管理、運送及び諸施設を提供し、更に隊員はレッド ハット カマンド コントロール センターの通信ネットワークを運営した。

オ 267 化学中隊はレッド ハット 弾薬地域に於けるトレーラーへの化学弾薬積上げ及び固定作業の役割を果たし、更に高一の弾薬漏れに備え特別消去チームを配置した。

オ 531 運送中隊は知花レッド ハット 地域から天願棧橋間の弾薬運送にトラックター/トレーラー及び運転手を配置し、更に全車輛の完全整備を維持するトラック整備チームとして小隊を配置した。

オ 412 運送中隊はレッド ハット 期間中、天願棧橋へ配置され、荷役、ホークリフト、貨物固定及びウインチ作業を含めた諸業務を完遂した。

オ 196 兵器大隊オ 5 爆発物処理分遣隊は緊急状態に備え設定された計画に従い24時間勤務の爆発物処理支援を提供する責任を果たした。更に同分遣隊は技術整備チームへの緊急支援チームとして活動した。

オ 1 次及びオ 2 次レッド ハット 作戦の効果的完遂は主要係官に依つて達成された長期にわたる計画の完璧さ、高度の先見力を立証した。

レッド ハット 作戦の効果的、安全的達成は上記中隊々員の高度な能力及び感応性を立証した。

この顕著な功績を表彰し、本日、この式典に於いて、これら中隊へ高等弁務官功労賞を授与する。

NEWS RELEASE

USARYIS INFORMATION OFFICE

PHONE: 33152/58197



FOR IMMEDIATE RELEASE

SP4 Harold K. Hard III
Rel. #1119.

FORT BUCKNER, Okinawa—Sep 27—The 267th Chemical Company, 2d Logistical Command, will depart Okinawa on Monday, September 27, following a parade from the Chibana Ammunition Depot to Hamby Army Air Field where a USARYIS parade and awards ceremony will be conducted.

The awards ceremony and parade is scheduled for 3 p.m. Monday, and afterwards the motorcade will drive from the parade field to Kadena Air Base, where the 267th is slated to depart for Johnston Island at 5 p.m.

The ceremony and parade is being conducted in honor of USARYIS personnel who participated in Operation Red Hat and the transfer of the 267th Chemical Company, which is being reassigned to Johnston Island in connection with the Red Hat operation.

Units participating in the ceremony will include: 2d Logistical Command, USARYIS Special Troops, 30th Artillery Brigade, 7th Psychological Operations Group and the U.S. Army Medical Center.

Receiving Meritorious Service Medals from Lieutenant General James B. Lampert at the ceremony will be: Colonel Emanuel P. Alford, USARYIS Directorate for Logistics;
(more)

2-2-2-2-2

Colonel Clarence McCandless, 2d Logistical Command; Major Michael L. Goodman, Headquarters, USARYIS; Major George B. Jackson, 2d Logistical Command; Major J. Ledee-Ramirez, 2d Logistical Command; Captain William E. Goforth, 2d Logistical Command; Chief Warrant Officer Louis E. Spitzfaden, 2d Logistical Command; and Sergeant First Class Alvin B. McBride, 2d Logistical Command.

Captains Ralph Lewis, Jr., and Jack L. Evans of the 2d Logistical Command will receive Army Commendation Medals.

General Lampert will also award Hicom Certificates to the 267th Chemical Company and the 412th Transportation Company in recognition of their outstanding efforts in support of Operation Red Hat.

-30-

フォート・バクナー、沖縄 9月27日

カ2兵站部隊所属カ267化学中隊は9月27日(月)知花弾薬倉庫から在沖米陸軍の閲兵及び功勞章授興の式場となっているハンビー陸軍飛行場まで行進した後、沖縄を齎れることになっている。

閲兵及び功勞章授興式は同日午後3時行なわれ、その後、同中隊は式場から嘉手納基地まで車両行進を行ない、午後5時 ジョンソン島向け出發することになっている。

閲兵行進は、レドハット作戦に参加した、在沖米陸軍要員と、同じく、同作戦と関連して近く、ジョンソン島へ配備されるカ267化学中隊の転勤に対して敬意を表すために行なわれる。

閲兵式に参加する部隊は、カ2兵站部隊、在沖米陸軍特別部隊、カ30砲兵旅団、カ7心理作戦部隊、及び米陸軍医療センターの諸部隊である。

当日の式場で、ジェームス B. ランハート中将から、^{勲功}功勞章を授興されるのは、在沖米陸軍司令部兵站補給局所属の
エマニエル P. アルノード大佐、カ2兵站部隊所属 マカデス
クラーク大佐、在沖米陸軍司令部 マイケル L. グッドマン少佐
カ2兵站部隊 ジョージ B. シェクソン少佐、カ2兵站部隊
レターミレン少佐、カ2兵站部隊 ウィリアム E. ジョーフォース
大尉、カ2兵站部隊 ルイス E. スポッツスイトン上級准尉、
カ2兵站部隊 アルビン B. マクグライド 特務營長である。

カ2兵站部隊のラルフ・ルイス・ジューパー大尉、同じく、マイク
L. エバンス大尉は、陸軍功勞章を受けるところになっている。

また、ランハート中将は、カ267化学中隊及びカ42輸送部隊の
レドハット作戦に於ける支援功績を賞し、^{勲功}功勞章を授興するところになっている。

電

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計

書文会営給

調査長 参企析調
領移長 参領旅査移

総番号(TA) 51543 主管
71年10月5日18時15分 沖張 発
71年10月5日21時39分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理
弾やく輸送

第1039号 平

4日付おきなわタイムス朝刊は「黒い貨物を運ぶ、米軍でんがんさんばして秘密作戦。どくガスか、おびえる住民」との記事を報じているが、本件に関し、報道調整官ウッド・サイド大さは、三木に対し次の通り語った。

1. 陸軍は、9月30日からてんがんさんばしに入港中のチャーター貨物船COPPER STATE号に弾やくを輸送積載中である。弾種及び数量については発表できないが、ガス弾ではなく通常弾である。

2. りゆう政大島から上記に関し問い合わせがあつたが、前項の通り回答した。現地調査は許可していない。

(了)

ア 参地中東
長 北東西
米 参北北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
経 源

長 参貿統国
経協 参政技一理
長 条 国企二

長 参条規
国 参政経科

長 軍社専
情 参道内外
長 一二

外務省

電

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外儀官
務務 典房
次次
臣官官審審長長
儀総人電厚計

書文会営給

調査長 参企析調
領移長 参領旅査移

総番号(TA) 54683 主管
71年10月19日17時20分 沖張 発
71年10月19日17時30分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去(うさぎの死亡)

第1075号 略 至急

往信第565号に関し

民政府キヤンベル渉外局次長が、19日三木に語つたところ次の通り。

レッド・ハット・オペレーション期間中に数ひき(S E V E R A L)のうさぎが、あつさとトラック上における振動により、チパナ弾やく地域内で死亡した。(内2ひきはてんがんさんばし到着/ないし2時間後に死亡)ガスによる死亡は絶対はない。

(了)

ア 参地中東
長 北東西
米 参北北保
中南番 参一二
欧 参西東洋
長 西東

近ア 参書近ア
長 次総経国資
経 源

長 参貿統国
経協 参政技一理
長 条 国企二

長 参条規
国 参政経科

長 軍社専
情 参道内外
長 一二

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

160

大政事外外儀官
 務務 典房
 次次
 臣官官審審長長
 備総人電厚計
 書文会営給

調査長
 領移長
 参企折調
 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 参北北保
 中南審
 参一
 参西東洋
 長 西東

近ア長
 参書近ア
 長経
 次総経国資
 源
 参買統
 参政技一理
 国
 参条協規
 長国
 参政経科
 長情
 参道内外
 長文
 長
 一二

電信写

総番号(TA) 63269 主管
 71年12月3日18時15分 沖縄 発着
 71年12月3日18時19分 本省 着

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

どくガス撤去

第237号 平 至急

3日付サンケイ朝刊は、おきなわにどくガスがあるとの記事を報じているところ、本件に関し3日当方奥りの照会に対しキヤンベル渉外局長は次の通り三木に回答した。

1、レッド・ハット・エリア内でいかなる新しい建設も行なわれていない。

2、第75武器中隊は、CONVENTIONAL AMMUNITIONのみを扱う中隊であり、どくガスの貯蔵・管理は行なっていない。

3、第267化学中隊は、9月27日、津島へ移動し、約45名が一般兵たん支援及び保安業務要員として第2兵たんコマンドに配置替えされ、そのうち一部は本国に除隊帰国した。

4、なお、おきなわからどくガスが完全に撤去されたことは9月20日付弁務官発主席あて文書で確認されておりである。

<了>

(722 3/12)